科目コード 11001	科 目 名 日本語コミュニケーション I	
-------------	----------------------	--

①自己評価

ほぼ全員が毎回出席しているか3分の2程度は出席しているので、出席状況はきわめて良好である。しかしながら授業を理解するための工夫を何もしていないという者が半数近くいる。授業内容は、テキスト通りに進めており宿題を出しそれを確認するという方法であるから、予習ができていればぜんぜん問題ないはずであるが、それにもかかわらず難しいということである。授業に対する取り組みは、私語は全くないといってよい。受講意欲は、欠落しているのかというとそうではなく、宿題を出せばほぼ全員がやってきている。辞書を持ってくるようにいうとほぼ全員が忘れずに持ってくる。特に不満を持っているようには見受けないのであるが、数字的には授業に対する満足感が不足しているようである。

②評価に対する教員の思い

大変静かに受講してくれる学生たちで、スムーズに授業を進めることができた。私語がないといってよいぐらいで、したがって私語対策はする必要がなかった。ところが同じクラスの誰それはよくしゃべるという学生の自由記述があり科目を勘違いしているのではと思う。学生の理解度は個々の学生に問題をやらせる形式で進めることがあるので、そこでどの程度理解しているのかはすぐにわかるし、だいたいのでき具合もわかる。授業に対する意欲について、対象学生の半数が意欲なしとしているのは、使用する教材もさることながら、授業の進め方に改善の余地があるということであろうか。よくわからないというのが本音である。

③後期に向けての改善内容と方策

まず第一に、授業に対する意欲がないとする者の数字が気になるところである。受講態度を見ているとそのようには思えない。理解するための工夫をしていないとする者の数字と一致する。これは大学に来る意欲やその他あらゆる生活場面での意欲と同列なのではなかろうかというような気もする。そうであるならばこれは科目や教師に対する評価ではなくて、大学生としてのあり方に関わる問題である。教師に注意されないように無難に出席さえしていればよいというような無気力な態度であるということができるかもしれない。しかし授業全体の様子は必ずしもそのような感じではなかった。今年のこの科目についてはそれ以外に特筆すべきことがないと思う。

科目コード 41051	科 目 名 日本語コミュニケーション I	
-------------	----------------------	--

①自己評価

この授業に関しては、小テストの問題を毎回授業のはじめに課した。テキストから20~25題である。その際に、私の不注意で、問題文について、ミスを指摘されていた。

そのことは分かっていたので、注意をしていたが、結果的にミスが重なった。

私の授業に対する甘さがあったために、学生に迷惑をかけた。指摘されている内容に関して、申し 開きはできない。

②評価に対する教員の思い

誠心誠意授業を行うことに尽きる。しかし、国語の授業は専門外の者にとっては、大変難しい内容であった。口語表現を紙に書くときは文語表現をしなければならない等、自信を持って望むことができなかった。

③後期に向けての改善内容と方策

③ 後期の授業は、教職授業が中心であるが、毎回の授業の準備をしっかりやっていくことが大事である。心構えはどの授業であっても同じである。

科目コード 11002	科 目 名 日本語コミュニケーション I	
-------------	----------------------	--

①自己評価

「日本語ならば教えることができるだろう」と安易に考えていましたが、国語学の専門家ではないことから、授業が始まってまもなく責任の重さと自信のなさを痛感しました。それでも、受講者が将来的に困ることがないようにと考え、敬語などは参考書を数冊読み、クイズ形式で学ばせるなどの工夫を行いました。しかし、けっして満足できる授業ではありませんでした。

②評価に対する教員の思い

私語対策については、学生の顔と名前を覚えきれず、私の統率力のなさも相まって、私語、立ち歩きなど学級崩壊状態だったと思います。たとえば、減点や退室などのペナルティを課せば、ある程度の統制も可能だったとは考えますが、そのような権力的な対応の是非を考えつつ悩みながらも、この勉強の有益さを説いて進めました。

③後期に向けての改善内容と方策

「日本語コミュニケーションⅡ」は、クラス替えを配慮していただき、担当人数が 27 名になりました。また、前期で、顔と名前を覚えることができましたので、私語対策も進めやすくなりました。たとえば、指名して黙るように言えるだけ楽になりました。

後期の授業内容については「文章を書くスキルの重要さ」を説いて、教科書を軸に補助レジュメを使い、文章力の基本(ノウハウ)を教えていきます。実際には野球に関わる文章を読ませて、要約・感想などを記述させた文章を個別に添削しながら指導しています。

科目コード 24100	科	目	名	日本語コミュニケーションI
-------------	---	---	---	---------------

①自己評価

日本語コミュニケーションの再履修のクラスを受け持った。

授業の基本的な目標を自分の選んだテーマで皆の前でスピーチをする事においた。結果、全員がスピーチを行った。学生は人のスピーチを興味深く聞いていた。中にはユニークな内容のスピーチもあり、有意義な時間であった。

その点で授業の目標は達成したと考えている。

②評価に対する教員の思い

参加者にとっては一度落とした科目の再履修だったが、学生諸君は授業に積極的に参加したと思う。

③後期に向けての改善内容と方策

後期はない。

しいて課題を挙げれば、一般的なスピーチだけでなく、実社会で直面するいろんなシーンを想定した対話のトレーニングを実施するとよいと考える。

自己流の教材で、少しやってみたが学生は関心を持って取り組んだ。

たとえば、おばあちゃんを聞き手と想定したうえで、振り込め詐欺にあわないためのお話をさせた。 あるいは得意先からの注文を工場に伝えるなど。

学生は、実務的な、間違いがあっては困るような内容を相手に正しく伝える訓練ができた。

2011年

教員コメント

科目コード	31003	科	目	名	日本語(語彙・読解) I
111 -	01000			-	11 1 11 (11) (11)

①自己評価

4月に独自のアンケートを実施した。学生の要望や能力試験の人数なども確認し、常にそれを念頭に置いて授業した。授業については、「総合的に見て満足度」ほぼ全員満足していると評価してくれた。

学生自身は真面目で、終了後の質問も多かった。少数の学生が意欲ないように見えたが、「鞭と飴」 対策で効果的だった。しかし、遅刻が目立つ。

特に、短期留学生の熱心さに引っ張られ、本学の学生も授業への関与感が高まった。

しかし、個人差があり、熱心で積極的な学生と熱心でない学生の差が大きい。

この授業は、成績以外、出席、学習態度、宿題なども重視している。

	今後、音声・映像などを取り入れてさらに工夫し、効果をあげたい。
2	②評価に対する教員の思い
(3	③後期に向けての改善内容と方策

科目コード 11003	科 目 名 日本語(語彙・読解) I	
-------------	--------------------	--

①自己評価

アンケートの結果はおおむね想定どおりです。 出席率、学生の積極性、授業態度なども良く、 ある程度満足できるものです。

授業の準備は事前にかなり入念にしていますので、そのあたりは学生に伝わっていると思います。毎回、学生の理解度を確認しながら、できるだけ学生に分かりやすい説明を心掛けています。しかしながら、決められた時間内で、毎回目標を達成するのにやや時間不足も感じています。そのため、ともすると、説明が不十分になってしまうこともないとは言えないと感じることもあります。 基本的に一方的な授業ではなく、学生と対話しながらレベルアップを図りたいと授業を進めていますが、時間の範囲内での困難さを感じることもあります。

②評価に対する教員の思い

まず、難易度について『やや難しい』と回答した学生へは、「文字・語彙」は、できるだけ使えるもの、使用頻度の高いもの、また、大学生として知っておいてほしいものを提示するようにしています。ぜひとも、身につけていただきたいです。

「読解」についても、大学生としてよりアカデミックな内容のものに取り組み、様々な文章に触れていただきたいので、レベルアップに励んでほしいと思います。

学生の皆さんには、さらに積極的に授業に参加し、発話をして、知識だけではなく、生きた日本 語を学んでほしいと思います。

③後期に向けての改善内容と方策

「読解」に関しては、後期の授業で「新聞記事、新書、時事、ビジネス文章」なども取り扱って、より学習意欲が刺激されるものにしていきたいと考えています。その中で、理解語彙、使用語彙の拡張を図りたいと思います。そして、それらが日本語の学習のみならず、日本の文化や歴史、生活への理解を深めることに役立つと考えます。私語について、随時注意を促していきますが、やはり、授業に興味を持ってもらい、自覚を持たせることで改善が図られると思います。

「日本語能力試験」に関しては、後期から希望者に対策プリントを配布しており、自宅学習を増 やすことで、習熟度向上に結び付けたいと思っています。

また、学生とさらに交流を図ることで、ニーズに合った、より適切な授業展開がなされると思います。

2011年

教員コメント

①自己評価

今回のアンケート結果をみる限りではまずまずのよい評価になっていると思います。ただ、この 授業の難易度についてやや難しいという学生と適当であるという学生の数がちょうど半分ずつに なっている点について、学生一人一人の習熟度に応じた教え方をしていく必要性を感じました。

②評価に対する教員の思い

この授業は英語の基礎を身につけることを目標にしています。そのためには受け身でただ聴いているだけではなく、もっと質問をする等、積極的に授業に参加してほしいと思います。

③後期に向けての改善内容と方策

出来るだけ学生一人一人の理解度を確認しながら、きめ細かい指導を心掛けていきたいと思います。 授業中のお互いのコミュニケーションをより密にしていきます。

科目コード 21001	科 目 名 基礎英語 I	
-------------	--------------	--

①自己評価

今年度から新設されたこの科目は、プレースメント・テストの結果、もっとも習熟度の低い学生を対象とするクラスである。内容的には、きわめて初歩的な文法項目を徹底的に反復練習させる E ラーニングを中心としている。出席率は悪くなく(設問 1)半数以上が意欲的である(設問 3)にもかかわらず、難易度が高いと感じる学生が多い(設問 5)のは、低学力化の進行を感じさせる。教員に対する評価はまずまずだが(設問 6-9)、私語が多い(設問 10)という点は問題である。

②評価に対する教員の思い

テキストはもとより、E ラーニングに欠かせない ID やパスワードを忘れてくる学生がいるが、 それでは授業に参加できない (出席さえすればいいというのは間違いである)。解説の時間はきちんと聞く、作業の時間は集中するというように、自己規律をもって学習して欲しい。

③後期に向けての改善内容と方策

PC 教室ということで、学生機が教卓に向かい合う形になっておらず、特に後席の学生にとってはホワイトボードが見にくい、解説が聞き取りにくいという問題があるようだ。私語の発生源も後席がほとんどである。学生機のモニター画面に強制的に教員機の画像を映し出す装置があればかなり改善すると思われるが、今のところはこまめな巡回や個人指導などで人的に対応するしかない。

科目コード 43050	科 目 名 基礎英語 I	
-------------	--------------	--

①自己評価

内容的には、きわめて初歩的な文法項目を徹底的に反復練習させる E ラーニングを中心としている。出席率はかなり良く(設問 1)半数以上が意欲的である(設問 3)が、難易度はやや高いと感じている(設問 5)ことが見て取れる。

教員への評価(設問 6-9)、総合的満足度(設問 12) はまずまずだが、E ラーニングの効果に対する疑問の声(「座学の方がパソコンでするよりおぼえやすい」)があることには注意する必要がある。

②評価に対する教員の思い

遅刻や私語は総じて少ないクラスである。しかし、PCを授業以外のことに使用したり、解説を聞いていなかったりという学生もしばしば見受けられる。最低限のタスクをこなせばいいという姿勢ではなく、自己規律をもって積極的に授業に参加して欲しい。上記の意見を出してくれた学生は、Eラーニングの内容をもとに自分なりのノートを作るなどの工夫をしてみてはどうか。

③後期に向けての改善内容と方策

PC 教室ということで、学生機が教卓に向かい合う形になっておらず、特に後席の学生にとってはホワイトボードが見にくい、解説が聞き取りにくいという問題があるようだ。学生機のモニター画面に強制的に教員機の画像を映し出す装置があればかなり改善すると思われるが、今のところはこまめな巡回や個人指導などで人的に対応するしかない。

科目コード 44001	科	目	名	基礎英語 I
-------------	---	---	---	--------

①自己評価

内容的には、きわめて初歩的な文法項目を徹底的に反復練習させる E ラーニングを中心としている。出席率は悪くなく(設問 1) 7割が意欲的である(設問 3)にもかかわらず、難易度が高いと感じる学生が多い(設問 5)のは、低学力化の進行を感じさせる。教員に対する評価はまずまずだが(設問 6-9)、私語が多い(設問 10)という点は問題である。

②評価に対する教員の思い

特にスポーツ系学生に遅刻や私語が多い。また、テキストはもとより、E ラーニングに欠かせない ID やパスワードを忘れてくる学生がいるが、それでは授業に参加できない(出席さえすればいいというのは間違いである)。解説の時間はきちんと聞く、作業の時間は集中するというように、自己規律をもって学習して欲しい。「英検3級持ってる」という自由記述があったが、プレースメント・テストでたまたま実力が出せずにミスマッチとなったものか。

③後期に向けての改善内容と方策

PC 教室ということで、学生機が教卓に向かい合う形になっておらず、特に後席の学生にとってはホワイトボードが見にくい、解説が聞き取りにくいという問題があるようだ。私語の発生源も後席がほとんどである。学生機のモニター画面に強制的に教員機の画像を映し出す装置があればかなり改善すると思われるが、今のところはこまめな巡回や個人指導などで人的に対応するしかない。また、プレースメント・テスト結果と実力のミスマッチに関しては、英検等の資格をプレースメント・テスト免除用件にすることも考えられる。

科目コード 21002	科	目	名	基礎英語 I
-------------	---	---	---	--------

①自己評価

今回のアンケート項目の中の主と思われるものについて見ると、まず難易度については「難しい」が7割程度もあったのは予想外であったが、説明が分かりやすいか否かについては8割、話し方が聞き取りやすいか否かについては3分の2学生が聞き取りやすいと回答し、私語が多いか否かについてはクラスによって差はあるが、3クラスのうち1クラスでは半数が多いと答えているが、あとの2クラスでは私語は少ないという回答であった。確かにインターネットによる自主学習であるため学生は私語をする余裕などはあまり持てないというところがこの eーラーニングの大きなメリットではないだろうか。満足度については7割強の学生が満足と答えているが、残りの3割弱がそうではないのはやはり問題であると言えるであろう。

プレースメントテストにより英語力が劣る、あるいはやや劣ると判定された学生向けの e ーラーニング学習を導入したにもかかわらず、問題点や反省点は決して少なくはなさそうである。

②評価に対する教員の思い

一部の学生ではあるが、テキストをよく忘れる学生が見られ、これでは何のために出席している のかと言いたい。また自らの英語力の低さを自覚しているのであれば、授業に不満を唱える前に、 テキストはもちろん辞書も持参してもっと自ら進んで努力する姿勢を示してほしい。

③後期に向けての改善内容と方策

後期は私の担当としては基礎英語Iではなく基礎英語Iとなり、授業の方式も完全に変わり、eーラーニングではなく普通の教室での授業となるため、基礎英語Iを再び担当するのは来年度の前期となる。それはともかくとして来年度もまたこのeーラーニングによる授業となるため、その時は今回の反省点を踏まえて対処しなければならないのは言うまでもないことである。しかしeーラーニングというのは業者によるインターネット上の教材を利用する自主学習形式であり、教員個人の力量で授業を改善できる余地は少ないであろうし、授業中での個別的な指導や対話は難しい面もあり、何よりもまず学生自身の自主的な取り組みがあって初めてスタートしていくものであり、あまり教員が横から手助けするようなことは好ましくないであろうし、授業時間の関係からも難しいであろう。とは言え、単にやらせっ放しというのはもちろん良くないであろう。これはある意味ではeーラーニングの持つ難点とも言えるかもしれないし、良かれと思って導入したeーラーニング方式にむしろ苦情を訴えている学生がくれずかながらいたことも事実である。従って、途中でつまずいて足踏み状態に陥っている学生がいれば、教員側ももっと早くそれを察知すべきであり、またeーラーニング本来の良さを無にしないためにも、そして何よりも学生自身のためにも何らかの個別的なサポートをもっと考えていくべきであろう。

科目コード 24001	科	目	名	基礎英語Ⅱ
-------------	---	---	---	-------

①自己評価

今年度から新設されたこの科目は、プレースメント・テストの結果、やや習熟度の高い学生を対象とするクラスである。特に前期においては、あるていど基礎学力のある学生のみが受講することとなり、その大半が留学生であった。出席率(設問 1)、意欲(設問 3)ともに高く、受講に際しても工夫をしている(設問 2)。それでもなお、基礎的な内容にもかかわらず難しいと感じている(設問 5)ことが伺われ、いっそうの授業改善が必要であることを感じた。もともと通年用に想定した教科書を半期で使用したため、内容的に詰め込みすぎて消化不良を起こした感はある。

②評価に対する教員の思い

学生は総じて真面目で熱意も感じられた。ただ、機械的作業が多い内容だったので、慣れてくる と手を抜いて私語や居眠りをしている学生も少数ながら見受けられた。もう一段の積極性を期待し たい。

③後期に向けての改善内容と方策

来年度からは教科書を変更することも考えている。機械的な作業を減らし、学生が自分の頭で考えなければならない局面を増やす方が効果的ではないか。とりあえず後期は、会話の練習時間を多く取り、できれば暗唱なども取り入れたい。

科目コード 31004	科 目 名 日本語	·(作文) I
-------------	-----------	---------

①自己評価

項目1

アンケート結果を見ると、本講義における学生の出席率は高く、講義に対する姿勢も真面目で、一生懸命課題に取り組んでいる様子が見うけられる。前期の講義では、学生生活において必要不可欠であり、かつ、今後は他の講義においても増えるであろうと思われるレポート課題における文章作成に関わる基本的な事項を取り扱っていることから、学生の関心も高く、出席率の高さに結びついているのであろうと考えられる。アンケート結果によれば、ほとんどの出席は2/3以上と返答していたが、その理由は、2/3以上の出席がなければ、評価しない旨を前期最初の講義で学生に伝えていたためであろう。ただし、今回のアンケート回収数から見てもわかるように、1時間目に講義があるこのクラスは途中でドロップした学生も多い。

項目2

学生は授業を理解するために、分からないことや疑問に思ったことに関しては講義時に質問を行い、ノートも取っていることがアンケート結果に表れ、学生が、講義内容に対して真面目に取り組んでいることが分かる。また、授業を理解するために、自ら何らかの工夫をしていることも、評価できる。様々な工夫をしている学生に加え、復習をしている学生も、他教科にも関連する作文を作成するために必要な技術に対する関心が高いのであろう。わからないことがある場合は、その場で教師に質問することも役に立つため、今後も、講義時には学生が自主的な発言を行いやすい雰囲気を作りながら、進めていきたいと思う。学生に対しては、教師からの答えだけを待つのではなく、理解している学生が他の学生の質問に答えるという恊働学習の環境を作り上げる努力を行うことを望む。

項目3

本講義に対して、学習意欲があると答えた学生は多く、作文技術を高める必要性を強く感じていることが伺える。彼らは、他講義でのレポート作成や卒業論文執筆にも、本講義で取り扱っている内容が直接的に関わってくることを理解していると考えられる。また、前期は1年次ということもあり、入学からそれほど経過していないため、学習意欲が高いことも考えられ、今後、大学生活に慣れ、入学当初の学習意欲が薄れるであろう時期にも、引き続き高い学習意欲を持ち続けられるように、本講義の重要性を伝え、学生にも自らの成長を感じられるような講義を行いたいと思う。ただし、他のクラスと比較して、講義中に寝てしまったり、集中できていなかったりする学生が多く、アンケート結果ほど多くの学生が意欲を感じているとは、思われない。学ばなければならない、学びたいと思っているのならば、教師もその熱意が伝わるくらいに、頑張って欲しいと思う。

項目4

シラバスに関しては、今学期は講義開始後に16週となったため、少しずつ講義内容がずれてい

る。ただし、初回講義時に本講義における講義の目標、内容、評価法についての説明は行ったため、 学生もある程度、講義内容についての知識を最初に得ることができ、役に立ったという回答を行っ たのであろうと思われる。そのため、後期の初回講義時にも、講義の目標、内容、評価法について の詳しい説明を行い、学生の理解を得、半年間どのように講義に参加していくべきかを考えさせた いと思う。

項目5

講義の難易度に関しては、「適当である」と「やや難しい」と回答した学生が大半であり、教師側の考えを反映する結果であった。大学入学時までに学んだような簡単な作文技術ではなく、本講義では、アカデミック・ライティング技術の基礎部分(基本的なルール)を取り扱っている。そのため、学生のレベルに合わせながらも、少し難しいくらいの課題を与えている。今後、多くの講義でレポートが求められ、卒業論文の作成も行わなければならないことを考えると、現在の難易度程度が適当であると思われる。難しいと感じている学生に対しては、今後のことも考え、復習の時間を増やし、少し難しいが理解ができるという状態に持っていくことを望む。また、教師側も、入学時の日本語能力の差が激しいため、全ての学生が同じだけの能力を得ることは望んでおらず、学生一人一人が個々の能力に合った内容を身に付けることを期待している。

項目6

説明の分かりやすさに関しての結果を見ると、全ての学生が分かりやすいと回答しており、学生にとって講義内容が多少難しいと感じることはあっても、理解可能な内容であることが分かる。学生の能力に差が有ることから、講義時に行う説明はできるだけ詳細に行っているための結果であろうと思われる。本講義はアカデミック・ライティングの基礎を扱っており、今後の学生生活に必要な技術であるため、講義中にも教師やクラスメイトに積極的に質問し、理解を進めることを望む。後期の講義においても、できる限り詳しい説明を行う予定ではあるが、2年、3年と学年が進むにつれ、講師の説明で述べられたことだけを学ぶのではなく、その説明からどのようなことが考えられるのかを自ら思考していく態度を育成できるような講義を行いたいと思う。

項目7

話し方の聞き取りやすさについては、聞き取りやすいと答えた学生が多かった。その理由は、外国人留学生を対象とした日本語の講義であるため、明瞭な発音と十分な音量、および標準語の使用を徹底していることが原因であると思われる。他の講義では、日本語そのものが学習内容ではないため、方言が使用されていることも考えられ、そのような講義と比較すると聞き取りやすいとの評価になったのであろう。また、本講義では、受講生全員が外国人日本語学習者であるため、重要な箇所の説明には、できる限り易しい言葉を使用していることも、意味理解を助け、話し方が聞き取りやすいとの評価につながったと思われる。今後も、語学の講義である本講義においては、聞き取りやすい発言を心がけ、学習者が聞き取り面での負担を感じないようにしていきたい。

項目8

ほとんどの学生が、理解度を確認しながら講義を進めているという回答であった。講義に登録している学生数が20人ということで、多人数が履修している講義とは異なり、一人一人との対話が

行いやすい環境にあるためであろうと思われるが、語学の講義であることを考えると、少し多いと言わざるを得ず、その結果、「あまり進めていない」と感じた学生も1名存在したのであろうと考えられる。現在も、一つ一つの項目を進めるにあたり、学生に対して理解したかどうかの確認を行っているが、今後もこの確認作業は続け、学生の理解度に合わせながら講義を進めていきたいと思う。理解が追いついていないと感じられる学生には、教師側からも声をかけるが、自ら積極的に質問を行うことを期待する。また、講義時に理解できたことは、講義修了後に自宅で復習を行い、しっかりと身につけるようにして欲しい。

項目9

講師の講義に対する熱意や意欲を感じている学生は多く、1名を除く全ての学習者が、「かなり感じられる」および「ある程度感じられる」との回答を行っており、評価できると思われる。学生の本講義に対する関心も高く、熱心に講義に参加しているため、講師としてもやりがいを感じることができ、今後のためにも一つ一つをしっかりと理解して欲しいと強く思う気持ちが、学生に伝わり、お互いに良い相乗効果をもたらしていると考えられる。また、講義時にはできるかぎり学生一人一人と対話を行い、それぞれが有している文章作成における問題点を解決していけるような講義を行うことを心がけており、その点が評価されたのではないかとも思う。後期の講義でも、学生一人一人が持つ問題をできる限り改善していけるような講義を心がけ、しっかりと準備を行い、強い熱意を持って行いたいと思う。

項目10

アンケート結果を見ると、1名を除いて「多くない」「少ない」と答えており、学生は、私語は少ないと感じていると思われる。ただし、本講義では、教師からの解説によって内容を理解することはもちろんではあるが、学生同士の恊働学習による理解促進も尊重しており、講義に関する話であれば、学生同士の相談も積極的に行うように指導している。そのため、学生には、講義の間はできるだけ静かにするというスタンスではなく、学習言語である日本語を用いたより積極的な発言を期待したい。

項目11

私語対策に関しては、「あまりしていない」と「ある程度している」という回答であったが、実際の講義においては、私語が少ないため、それほど多く私語にたいして注意をする必要がないことが原因であると思われる。

項目12

本講義に関しては多くの学生が「やや満足している」という回答であり、学生は概ね満足していると考えられる。この結果は、本講義が、学生も必要であると感じているアカデミック・ライティングの知識や技能の習得に焦点が当てられており、一つ一つの事柄を学生が理解しているからであるうと思われる。卒業時まで、全ての講義において何らかの関わりが予測される作文技術に関する講義であるため、今後も、学生が疑問に思っている点に答えを導きだし、学生が必要性を感じている点に焦点を当てた講義を行い、学生が満足できる講義にしたいと思う。ただし、このクラスは欠席も多く、やる気があまり感じられない学生も多い。後期は、実際の作文作成を多く行うため、一

②評価に対する教員の思い		
③後期に向けての改善内容と方策		

人一人の学生が、自らが苦手としている点を理解し、それらの弱点を克服していこうという気持ち

をもって講義に挑んで欲しい。

科目コード 32001	科 目 名	日本語(作文) I
-------------	-------	-----------

①自己評価

項目1

アンケート結果を見ると、本講義における学生の出席率は高く、講義に対する姿勢も真面目で、一生懸命課題に取り組んでいる様子が見うけられる。前期の講義では、学生生活において必要不可欠であり、かつ、今後は他の講義においても増えるであろうと思われるレポート課題における文章作成に関わる基本的な事項を取り扱っていることから、学生の関心も高く、出席率の高さに結びついているのであろうと考えられる。アンケート結果によれば、ほとんどの出席は2/3以上と返答していたが、その理由は、2/3以上の出席がなければ、評価しない旨を前期最初の講義で学生に伝えていたためであろう。

項目2

学生は授業を理解するために、分からないことや疑問に思ったことに関しては講義時に質問を行い、ノートも取っていることがアンケート結果に表れ、学生が、講義内容に対して真面目に取り組んでいることが分かる。また、授業を理解するために、自ら何らかの工夫をしていることも、評価できる。様々な工夫をしている学生に加え、復習をしている学生も、他教科にも関連する作文を作成するために必要な技術に対する関心が高いのであろう。わからないことがある場合は、その場で教師に質問することも役に立つため、今後も、講義時には学生が自主的な発言を行いやすい雰囲気を作りながら、進めていきたいと思う。学生に対しては、教師からの答えだけを待つのではなく、理解している学生が他の学生の質問に答えるという恊働学習の環境を作り上げる努力を行うことを望む。

項目3

本講義に対して、1名を除く全員が、学習意欲があると回答しており、作文技術を高める必要性を強く感じていることが伺える。彼らは、他講義でのレポート作成や卒業論文執筆にも、本講義で取り扱っている内容が直接的に関わってくることを理解していると考えられる。また、前期は1年次ということもあり、入学からそれほど経過していないため、学習意欲が高いことも考えられ、今後、大学生活に慣れ、入学当初の学習意欲が薄れるであろう時期にも、引き続き高い学習意欲を持ち続けられるように、本講義の重要性を伝え、学生にも自らの成長を感じられるような講義を行いたいと思う。ただし、他のクラスと比較して、出席はしていても、講義中に寝てしまう学生が多く、アンケート結果ほど多くの学生が意欲を感じているとは、思われない。学ばなければならない、学びたいと思っているのならば、教師もその熱意が伝わるくらいに、頑張って欲しいと思う。

項目4

シラバスに関しては、今学期は講義開始後に 16 週となったため、少しずつ講義内容がずれている。ただし、初回講義時に本講義における講義の目標、内容、評価法についての説明は行ったため、

学生もある程度、講義内容についての知識を最初に得ることができ、役に立ったという回答を行ったのであろうと思われる。そのため、後期の初回講義時にも、講義の目標、内容、評価法についての詳しい説明を行い、学生の理解を得、半年間どのように講義に参加していくべきかを考えさせたいと思う。

項目5

講義の難易度に関しては、「適当である」と「やや難しい」と回答した学生が大半であり、教師側の考えを反映する結果であった。大学入学時までに学んだような簡単な作文技術ではなく、本講義では、アカデミック・ライティング技術の基礎部分(基本的なルール)を取り扱っている。そのため、学生のレベルに合わせながらも、少し難しいくらいの課題を与えている。今後、多くの講義でレポートが求められ、卒業論文の作成も行わなければならないことを考えると、現在の難易度程度が適当であると思われる。難しいと感じている学生に対しては、今後のことも考え、復習の時間を増やし、少し難しいが理解ができるという状態に持っていくことを望む。また、教師側も、入学時の日本語能力の差が激しいため、全ての学生が同じだけの能力を得ることは望んでおらず、学生一人一人が個々の能力に合った内容を身に付けることを期待している。

項目6

説明の分かりやすさに関しての結果を見ると、ほとんどの学生が分かりやすいと回答しており、 学生にとって講義内容が多少難しいと感じることはあっても、理解可能な内容であることが分か る。学生の能力に差が有ることから、講義時に行う説明はできるだけ詳細に行っているための結果 であろうと思われる。本講義はアカデミック・ライティングの基礎を扱っており、今後の学生生活 に必要な技術であるため、講義中にも教師やクラスメイトに積極的に質問し、理解を進めることを 望む。後期の講義においても、できる限り詳しい説明を行う予定ではあるが、2年、3年と学年が 進むにつれ、講師の説明で述べられたことだけを学ぶのではなく、その説明からどのようなことが 考えられるのかを自ら思考していく態度を育成できるような講義を行いたいと思う。

項目7

話し方の聞き取りやすさについては、聞き取りやすいと答えた学生が多かった。その理由は、外国人留学生を対象とした日本語の講義であるため、明瞭な発音と十分な音量、および標準語の使用を徹底していることが原因であると思われる。他の講義では、日本語そのものが学習内容ではないため、方言が使用されていることも考えられ、そのような講義と比較すると聞き取りやすいとの評価になったのであろう。また、本講義では、受講生全員が外国人日本語学習者であるため、重要な箇所の説明には、できる限り易しい言葉を使用していることも、意味理解を助け、話し方が聞き取りやすいとの評価につながったと思われる。今後も、語学の講義である本講義においては、聞き取りやすい発言を心がけ、学習者が聞き取り面での負担を感じないようにしていきたい。

項目8

全ての学生が、理解度を確認しながら講義を進めているという回答であった。講義に登録している学生数が20人ということで、多人数が履修している講義とは異なり、一人一人との対話が行いやすい環境にあるためであろうと思われるが、語学の講義であることを考えると、少し多いと言わ

ざるを得ず、その結果、「あまり進めていない」と感じた学生も1名存在したのであろうと考えられる。現在も、一つ一つの項目を進めるにあたり、学生に対して理解したかどうかの確認を行っているが、今後もこの確認作業は続け、学生の理解度に合わせながら講義を進めていきたいと思う。理解が追いついていないと感じられる学生には、教師側からも声をかけるが、自ら積極的に質問を行うことを期待する。また、講義時に理解できたことは、講義修了後に自宅で復習を行い、しっかりと身につけるようにして欲しい。

項目9

講師の講義に対する熱意や意欲を感じている学生は多く、多くの学習者が、「かなり感じられる」および「ある程度感じられる」との回答を行っており、評価できると思われる。学生の本講義に対する関心も高く、熱心に講義に参加しているため、講師としてもやりがいを感じることができ、今後のためにも一つ一つをしっかりと理解して欲しいと強く思う気持ちが、学生に伝わり、お互いに良い相乗効果をもたらしていると考えられる。また、講義時にはできるかぎり学生一人一人と対話を行い、それぞれが有している文章作成における問題点を解決していけるような講義を行うことを心がけており、その点が評価されたのではないかとも思う。後期の講義でも、学生一人一人が持つ問題をできる限り改善していけるような講義を心がけ、しっかりと準備を行い、強い熱意を持って行いたいと思う。

項目10

アンケート結果を見ると、「やや多い」と答えている学生が最も多いが、「あまり多くない」「少ない」と答えている学生も多く、学生によって捉え方が異なっていることが分かる。私語の量という点から考えると、他のクラスとさほど変わりはないと思われるが、このクラスは、活発に発言が行われているため、積極的に発言している学生の後ろで、講義と関係のない私語を行っている学生も存在しているのであろう。他の学生が発言しているときは、その学生の意見にもしっかりと耳を傾ける姿勢を期待したい。また、本講義では、教師からの解説によって内容を理解することはもちろんではあるが、学生同士の恊働学習による理解促進も尊重しており、講義に関する話であれば、学生同士での相談も積極的に行って欲しい。

項目11

私語対策に関しては、80%以上の学生が「よくしている」および「ある程度している」との回答を行っており、学生側もある程度、教師の私語対策を評価していると考えられる。評価の理由は、本講義に登録している学習者は全て留学生であるため、どのような会話を行っているかはわからないが、講義と関係がないと思われる雰囲気を持つ会話や、質問が発生するとは思われないタイミングの会話、また、携帯電話の使用など、全て禁止していおり、そのようなことが行われれば逐一注意しているためであると考えられる。ただし、前項目でも述べたように、講義に関連する相談であれば、学生同士の恊働学習という視点から、講義時であっても発言を許可している。そのため、注意しきれていない状況も存在したと考えられる。今後は、より厳しく講義に関する相談のみを認め、講義とは関連のない内容に関する私語は厳しく注意していきたいと思う。

項目12

本講義に関しては1名を除く全ての学生が「満足している」という回答であり、学生は講義に満足していることが伺える。この結果は、本講義が、学生も必要であると感じているアカデミック・ライティングの知識や技能の習得に焦点が当てられており、一つ一つの事柄を学生が理解しているからであろうと思われる。卒業時まで、全ての講義において何らかの関わりが予測される作文技術に関する講義であるため、今後も、学生が疑問に思っている点に答えを導きだし、学生が必要性を感じている点に焦点を当てた講義を行い、学生が満足できる講義にしたいと思う。ただし、このクラスは欠席も多く、やる気があまり感じられない学生も多い。後期は、実際の作文作成を多く行うため、一人一人の学生が、自らが苦手としている点を理解し、それらの弱点を克服していこうという気持ちをもって講義に挑んで欲しい。

②評価に対する教員の思い		
②※押に占けての事業中点 1. 七体		
③後期に向けての改善内容と方策		

科目コード 33001	科目名	日本語(作文) I
-------------	-----	-----------

①自己評価

項目1

アンケート結果を見ると、本講義における学生の出席率は高く、講義に対する姿勢も真面目で、一生懸命課題に取り組んでいる様子が見うけられる。前期の講義では、学生生活において必要不可欠であり、かつ、今後は他の講義においても増えるであろうと思われるレポート課題における文章作成に関わる基本的な事項を取り扱っていることから、学生の関心も高く、出席率の高さに結びついているのであろうと考えられる。アンケート結果によれば、ほとんどの出席は2/3以上と返答していたが、その理由は、2/3以上の出席がなければ、評価しない旨を前期最初の講義で学生に伝えていたためであろう。

項目2

学生は授業を理解するために、分からないことや疑問に思ったことに関しては講義時に質問を行い、ノートも取っていることがアンケート結果に表れ、学生が、講義内容に対して真面目に取り組んでいることが分かる。また、授業を理解するために、自ら何らかの工夫をしていることも、評価できる。様々な工夫をしている学生に加え、復習をしている学生も、他教科にも関連する作文を作成するために必要な技術に対する関心が高いのであろう。わからないことがある場合は、その場で教師に質問することも役に立つため、今後も、講義時には学生が自主的な発言を行いやすい雰囲気を作りながら、進めていきたいと思う。学生に対しては、教師からの答えだけを待つのではなく、理解している学生が他の学生の質問に答えるという恊働学習の環境を作り上げる努力を行うことを望む。

項目3

本講義に対して、全員が学習意欲があると回答しており、作文技術を高める必要性を強く感じていることが伺える。彼らは、他講義でのレポート作成や卒業論文執筆にも、本講義で取り扱っている内容が直接的に関わってくることを理解していると考えられる。また、前期は1年次ということもあり、入学からそれほど経過していないため、学習意欲が高いことも考えられ、今後、大学生活に慣れ、入学当初の学習意欲が薄れるであろう時期にも、引き続き高い学習意欲を持ち続けられるように、本講義の重要性を伝え、学生にも自らの成長を感じられるような講義を行いたいと思う。ただし、他のクラスと比較して、出席はしていても、講義中に寝てしまう学生が多く、アンケート結果ほど多くの学生が意欲を感じているとは、思われない。学ばなければならない、学びたいと思っているのならば、教師もその熱意が伝わるくらいに、頑張って欲しいと思う。

項目4

シラバスに関しては、今学期は講義開始後に 16 週となったため、少しずつ講義内容がずれている。ただし、初回講義時に本講義における講義の目標、内容、評価法についての説明は行ったため、

学生もある程度、講義内容についての知識を最初に得ることができ、役に立ったという回答を行ったのであろうと思われる。そのため、後期の初回講義時にも、講義の目標、内容、評価法についての詳しい説明を行い、学生の理解を得、半年間どのように講義に参加していくべきかを考えさせたいと思う。

項目5

講義の難易度に関しては、「適当である」と「やや難しい」と回答した学生が大半であり、教師側の考えを反映する結果であった。大学入学時までに学んだような簡単な作文技術ではなく、本講義では、アカデミック・ライティング技術の基礎部分(基本的なルール)を取り扱っている。そのため、学生のレベルに合わせながらも、少し難しいくらいの課題を与えている。今後、多くの講義でレポートが求められ、卒業論文の作成も行わなければならないことを考えると、現在の難易度程度が適当であると思われる。難しいと感じている学生に対しては、今後のことも考え、復習の時間を増やし、少し難しいが理解ができるという状態に持っていくことを望む。また、教師側も、入学時の日本語能力の差が激しいため、全ての学生が同じだけの能力を得ることは望んでおらず、学生一人一人が個々の能力に合った内容を身に付けることを期待している。

項目6

説明の分かりやすさに関しての結果を見ると、全ての学生が分かりやすいと回答しており、学生にとって講義内容が多少難しいと感じることはあっても、理解可能な内容であることが分かる。学生の能力に差が有ることから、講義時に行う説明はできるだけ詳細に行っているための結果であろうと思われる。本講義はアカデミック・ライティングの基礎を扱っており、今後の学生生活に必要な技術であるため、講義中にも教師やクラスメイトに積極的に質問し、理解を進めることを望む。後期の講義においても、できる限り詳しい説明を行う予定ではあるが、2年、3年と学年が進むにつれ、講師の説明で述べられたことだけを学ぶのではなく、その説明からどのようなことが考えられるのかを自ら思考していく態度を育成できるような講義を行いたいと思う。

項目7

話し方の聞き取りやすさについては、聞き取りやすいと答えた学生が多かった。その理由は、外国人留学生を対象とした日本語の講義であるため、明瞭な発音と十分な音量、および標準語の使用を徹底していることが原因であると思われる。他の講義では、日本語そのものが学習内容ではないため、方言が使用されていることも考えられ、そのような講義と比較すると聞き取りやすいとの評価になったのであろう。また、本講義では、受講生全員が外国人日本語学習者であるため、重要な箇所の説明には、できる限り易しい言葉を使用していることも、意味理解を助け、話し方が聞き取りやすいとの評価につながったと思われる。今後も、語学の講義である本講義においては、聞き取りやすい発言を心がけ、学習者が聞き取り面での負担を感じないようにしていきたい。

項目8

全ての学生が、理解度を確認しながら講義を進めているという回答であった。講義に登録している学生数が20人ということで、多人数が履修している講義とは異なり、一人一人との対話が行いやすい環境にあるためであろうと思われるが、語学の講義であることを考えると、少し多いと言わ

ざるを得ず、その結果、「あまり進めていない」と感じた学生も1名存在したのであろうと考えられる。現在も、一つ一つの項目を進めるにあたり、学生に対して理解したかどうかの確認を行っているが、今後もこの確認作業は続け、学生の理解度に合わせながら講義を進めていきたいと思う。理解が追いついていないと感じられる学生には、教師側からも声をかけるが、自ら積極的に質問を行うことを期待する。また、講義時に理解できたことは、講義修了後に自宅で復習を行い、しっかりと身につけるようにして欲しい。

項目9

講師の講義に対する熱意や意欲を感じている学生は多く、全ての学習者が、「かなり感じられる」および「ある程度感じられる」との回答を行っており、評価できると思われる。学生の本講義に対する関心も高く、熱心に講義に参加しているため、講師としてもやりがいを感じることができ、今後のためにも一つ一つをしっかりと理解して欲しいと強く思う気持ちが、学生に伝わり、お互いに良い相乗効果をもたらしていると考えられる。また、講義時にはできるかぎり学生一人一人と対話を行い、それぞれが有している文章作成における問題点を解決していけるような講義を行うことを心がけており、その点が評価されたのではないかとも思う。後期の講義でも、学生一人一人が持つ問題をできる限り改善していけるような講義を心がけ、しっかりと準備を行い、強い熱意を持って行いたいと思う。

項目10

アンケート結果を見ると、多くの学生が「多くない」と答えているが、「多い」「やや多い」と答えている学生もおり、学生によって捉え方が異なっていることが分かる。私語の量という点から考えると、他のクラスとさほど変わりはないと思われるが、このクラスでよく私語をする学生の声が大きいため、真面目に勉強している学生にとっては「多い」と感じられるのであろう。ただし、本講義では、教師からの解説によって内容を理解することはもちろんではあるが、学生同士の恊働学習による理解促進も尊重しており、講義に関する話であれば、学生同士の相談も積極的に行うように指導している。そのため、学生には、講義の間はできるだけ静かにするというスタンスではなく、学習言語である日本語を用いたより積極的な発言を期待したい。

項目11

私語対策に関しては、80%程度の学生が「よくしている」および「ある程度している」との回答を行っており、学生側もある程度、教師の私語対策を評価していると考えられる。評価の理由は、本講義に登録している学習者は全て留学生であるため、どのような会話を行っているかはわからないが、講義と関係がないと思われる雰囲気を持つ会話や、質問が発生するとは思われないタイミングの会話、また、携帯電話の使用など、全て禁止していおり、そのようなことが行われれば逐一注意しているためであると考えられる。ただし、前項目でも述べたように、講義に関連する相談であれば、学生同士の恊働学習という視点から、講義時であっても発言を許可している。そのため、注意しきれていない状況も存在したと考えられる。今後は、より厳しく講義に関する相談のみを認め、講義とは関連のない内容に関する私語は厳しく注意していきたいと思う。

項目12

本講義に関しては全ての学生が「満足している」という回答であり、学生は講義に満足していることが伺える。この結果は、本講義が、学生も必要であると感じているアカデミック・ライティングの知識や技能の習得に焦点が当てられており、一つ一つの事柄を学生が理解しているからであろうと思われる。卒業時まで、全ての講義において何らかの関わりが予測される作文技術に関する講義であるため、今後も、学生が疑問に思っている点に答えを導きだし、学生が必要性を感じている点に焦点を当てた講義を行い、学生が満足できる講義にしたいと思う。ただし、このクラスは欠席も多く、やる気があまり感じられない学生も多い。後期は、実際の作文作成を多く行うため、一人一人の学生が、自らが苦手としている点を理解し、それらの弱点を克服していこうという気持ちをもって講義に挑んで欲しい。

②評価に対する教員の思い		
②※押に占けての事業中点 1. 七体		
③後期に向けての改善内容と方策		

科目コード 53050	科 目 名]	I Tリテラシー I
-------------	---------	------------

①自己評価

授業アンケートによると、授業の難易度を「かなり難しい」及び「やや難しい」と感じている受講生が4割を超えている。しかし、一方で授業の説明および授業の満足度については比較的高い評価を得ており、全体としては授業の進め方は概ね適切であったと考えている。

ただ、留学生クラスでは 3 割の学生が話し方について「やや聞き取りにくい」との評価をしている点については、もう少し、ゆっくりと分かりやすい言葉で授業を進める必要があると感じている。また、実習科目なのでわからないことを教えあうなどのある程度の私語は認めている状況ではあるが、半数以上の学生が私語は「かなり多い」あるいは「やや多い」と感じているのに対し、3割の学生は私語対策があまり行われていないと評価していることもあり、もう少し、厳しく私語対策をしたほうが良いと思われる。

②評価に対する教員の思い

授業を理解するための工夫として、およそ半数の受講生が何もしていないと回答している点について、わからないことがあった場合は、それを放置しないで理解できるまでその都度質問してほしいと思う。

実習科目なので欠席すると次の授業の理解が出来にくくなるので出来るだけ欠席しないで積極的に授業に取り組んでほしい。また、やむをえず欠席した際の授業内容を自習しておくことや、授業で出された課題の作成を積極的に行ってほしい。

また、教科書等授業に必要な物を忘れないようにして、授業に臨んでほしい。

③後期に向けての改善内容と方策

受講生が授業の内容を難しく感じないよう、また、より満足してもらえるように、わかりやすい 説明と例題及び課題の選び方をさらに工夫をしていきたい。また、重要な部分は、繰り返し説明を 行うだけでなく、課題の中に何度も取り入れるようにして理解を深めてもらうようにする。また、 早口にならないように注意して、聞き取りやすい授業に努めていきたい。

さらに、課題作成の時間を充分に取り、その際受講生からの質問を受け付けるだけでなく、TA とも連携して、理解が不十分な学生を積極的にサポートしたい。

私語に対しては、授業に関係のない話題については厳しく注意していきたいと考えている。

科目コード 52001	科目名	I Tリテラシー I
-------------	-----	------------

①自己評価

留学生と日本人学生との交流や、公平な環境確保の視点から、座席をほぼ毎回変えて指定したが、面倒な作業の割に効果がどれだけあったのかは確信がもてない。アクティブメイルを活用し、その日に取り組む内容を授業開始までに案内し、授業を休んでも、その日の取り組み予定が分かり、自分なりにフォロウすることができるし、また後になりいつ何を取り組んだかが確認できるようにした。シラバスに書かれている「授業を欠席した場合は、次回までに欠席した回の内容を取り組んでおく努力を求める」ことに沿う手立てでもある。学校メイルの取り扱いは習熟できたのではないかと考える。クラス人数 24 名中、留学生が 7 名、日本人学生が 17 名であった。留学生にも、当初分かりやすいように授業を進めていたはずたが、いつのまにかあまり意識せず授業を進めていたところは、反省材料である。授業教室には書画カメラ装置がなく、また教員 P C 画面を手元のモニタに映しだせない環境だったので、昨年度までに比べ授業はしにくかった。

②評価に対する教員の思い

概ね、どちらかというと良い方の評価であったが、自分で気づいている改善や工夫すべき事柄を 少しでも取り組み実行したい。

自由記載について

- (1)「この授業について思うこと」…回答数 3名であり、「特になし」が 2名、「パソコンでの色々な使い方が良くわかった」が 1名だった。多くは可もなく不可もなくかもしれないが、受講生によっては、意義のあるものだったとの声が聞けて励みになった。
- (2)「私語対策について」…回答数 3 名であり、「特になし」が 3 名だった。マークシートアンケートでは、「この授業は私語が多いですか?」に対し、「あまり多くない」と「少ない」を合わせて 77%でもあるので、回答の意味するところは私語対策は特に必要なかったということなのであろう。

③後期に向けての改善内容と方策

科目コード 13001	科	目	名	基礎数学 I
-------------	---	---	---	--------

①自己評価

複数の教員が担当する基礎数学Iは、授業方法や成績評価などを共通化しています。

授業方法は、各人の学習の進行状況に応じて、個々に問題を与え演習解説を行うというものです。 学生の便宜を図るために、各人が理解度をチェックする「自己管理シート」を配付しましたが、学 生はこれを結構活用していたように思います。

成績評価は、定期試験の結果のみで行うことにしました。このために、全体として出席率が悪くなったのではないかと思います。また、出席してもまじめに演習に取り組んでいない学生も見受けられました。

②評価に対する教員の思い

アンケートにはもう少し詳しく教えてほしいとか、問題が少し難しいと書いた学生がいました。 分からないところがあったら手を挙げて下さいと言ったり、教室内を巡回してどこか分からないと ころがないかなどと尋ねたりしましたが、もっと積極的に質問できるような環境作りを考えなけれ ばならないと思っています。

③後期に向けての改善内容と方策

担当教員間の話し合いで、前期と同様に基礎数学 I・Ⅱの成績評価は定期試験の結果のみで行う こととしましたが、新たに出席回数 10 回以上を受験資格とすることを決めました。大幅な遅刻、 教科書の不所持、不真面目な授業態度は欠席扱いにします。

こうした措置によって課題演習にまじめに取り組み、分かりにくい問題については積極域に質問してくれる学生が増えることを期待しています。またそのような学生が増えるように工夫していきたいと思っています。そして、前期と同様に、学生の便宜を図るために、「自己管理シート」を作成・配付する予定です。

科目コード 44050	科 目 名 基礎数学 I	
-------------	--------------	--

①自己評価

すべての項目に対して軒並み高い評価を受けており、この評価を素直に受け止めてよいのか毎回 悩む。受講生が少ないこと、学生自身が授業アンケートの必要性を理解していないことが小生の判 断を苦しめている。これを踏まえたかたちで、自己評価を行う。

私語対策(項目 10,11) について、リメディアル科目という位置づけから、受講者を限定したこと、かつ同一科目担当の他教員との連携もあって小生が他の講義で実施している方法が使えなかったのは残念ではあるが、私語対策するほどのことではなかったのは幸いである。

シラバスを読んでから受講しているか(項目 4)について、当該講義はプレースメントテストの 結果から強制的に受講するため、シラバスを読む機会はなかったと判断している。また、リメディ アル科目なので読むまでもなかったとも考えられる。このあたりは、入学直前の学生ガイダンスで アナウンスすべきではなかろうか。なお、入学手続き時が望ましい。

②評価に対する教員の思い

強いて言えば、学生には学習意欲の現状維持を希望する。

③後期に向けての改善内容と方策

リメディアル科目、かつ複数教員が分担する科目という位置づけなので、足並みそろえた講義が展開できないかと思われる。本学は教員の能力の高さから各自の教育方法に委ねており、当該科目もそのままの姿勢で行われた。また、当該科目は全学共通教育科目に属するが、担当者は各学部で分担するかたちをとっているため、学部間で温度差がある。具体的にいえば、両学部とも計算力、問題解決に対する数学的素養の向上は共通であるが、一方、情報学部の場合、数学的思考なしには多くの専門科目が理解できなくなるが、現状では四則演算程度にとどまっている。四則演算も重要だが、リメディアル科目を整備した以上、学部を越えた担当教員間の連携を強く希望する。

科目コード 34002	科	目	名	基礎数学 I
-------------	---	---	---	--------

①自己評価

履修登録者数 20、有効回答者数 7 と、統計学的にあまり意味がない気もするのですが、おおむ ね以下の傾向が読み取れるかと思います。

出席率は、「1/3 程度」28.6%、「ほとんど出席していない」28.6%と、そもそも有効回答者数が履修登録者数の1/3 程度であるのに加え、極めて悪い。授業を理解するために、「復習をする」が実数で1人。授業に対する受講意欲は、「あまり意欲がない」28.6%、「全く意欲がない」14.3%。授業の難易度は、「かなり難しい」33.3%、「やや難しい」33.3%、「適当である」33.3%と、散らばっています。説明の分かりやすさは、「かなり分かりやすい」28.6%、「やや分かりやすい」42.9%と、おおむね分かりやすいようです。総合的な満足度は、「かなり満足している」33.3%、「やや満足している」33.3%と、まずまずのようです。

②評価に対する教員の思い

この授業の出席率は極めて悪く、定期試験が近づいてきたせいか授業アンケートの日の出席率の 7/20 はむしろ多い方でした。ほとんど出席していない学生の回答にどれほどの意味があるのか疑問に思いますし、授業アンケートの日にも出席していない 13/20 もの学生をこそ問題にすべきと思われます。また、同じ「基礎数学 I」の他のクラスとの比較も気になりますが、データが公開されていません。

ともあれ、「基礎数学 I」はプレースメントテストに基づく登録必修科目であり、「I」から受講しているということは、数学の基礎学力がかなり不足しているということです。にもかかわらず、出席率が低く、受講意欲が低いことが最大の課題でしょう。

③後期に向けての改善内容と方策

私は後期にも「基礎数学 I」の再履修クラスを担当します。説明はおおむね分かりやすいようですので、まずは授業に出席して私の説明を聞いていただくのが先決でしょう。出席そのものは成績評価の対象にならず、定期試験の結果が全てですので、理屈の上では授業に出席しなくても自分で勉強して定期試験の問題が解ければいいわけですが、実際問題として「自分で勉強する」と言って授業に出席せず、結局単位を落とした学生が多かったようです。定期試験の問題が解けるようになるためにこそ授業に出席する必要があるということをしっかり理解していただきたいと思います。また、自由記述欄に「集中できなかった」ともありましたが、一斉授業と違って授業時間中には

また、自由記述欄に「集中できなかった」ともありましたが、一斉授業と違って授業時間中には個別の質問に応じるようにしましたので、集中できる環境で予習してきて、分からなかった部分を授業時間中に質問するようにしていただければと思います。

科目コード 13002	科	目	名	基礎数学 I
-------------	---	---	---	--------

①自己評価

自己評価というよりも、分析結果のほうが近いかもしれない。

授業評価アンケートの項目は、学生の自己評価項目を除けば、当該授業科目の内容について(設問項目 4,5)、教員の態度および授業技術について(設問項目 6,7,8,9)、授業中の教室内環境について(10,11)、授業の総合的満足度(設問項目 12)の4つに分けることができる。どの項目も肯定派と否定派が7対3くらいの割合で分かれている。初めての担当科目であり、まずまずの評価と理解している。

この科目は昨今の学生の基礎学力(国語、数学)について教員が危機感を抱いたところから始まっている。また文部科学省においても、初年次教育やリメディアル教育の促進があり、これに応えるべく本学でも情報学部、ビジネス学部に共通の科目として設置された。同じ趣旨として、ビジネス学部前身の一つである経済学部では、「経済数学演習」という講義科目を設置し、またそれ専用に「経済数学入門」(竹山、根岸、福留著)という教科書も作成した。その時の経験も踏まえつつ今回の基礎数学 I の授業を担当した。ただし、数年前に講義担当した「経済数学」よりも格段に基本的なテーマが多く、O J Tで学んだというのが正直なところである。

またこの科目は複数のクラス分け(能力別および担当適正人数別)がされ、各クラスの担当者で会議を行い、意見交換しながら試行錯誤的に改良を重ねた。年度初めのプレースメントテストの出来具合と対照すれば、おおむねその効果が表れたと考えるが、想定していたよりも期末試験での不合格者が多かったことも否めない。

また、学生が比較的得意な計算問題と、やや思考力を要する文章問題とでは、出来不出来の差が 大きく、私が担当したクラスでは計算問題はできない学生がほとんどいなかった。留学生が 7 割 を占めていたので、文章問題で手こずる場面がほとんどであった。

②評価に対する教員の思い

悪くはない評価をしてもらっているが、上述の通り初めての担当の科目でもあり、もっと工夫と 改善ができるはずである。これ以上の評価となるように努力する。

また今回の授業アンケートの学生からの評価に対する思いではないが、この「基礎数学」という 科目の趣旨に関することでぜひ伝えておきたいことがある。

私の担当クラスでは第 1 回目の授業でかなり時間をかけて詳しく「基礎数学」という科目・授業の趣旨を説明した。私は大学の就職委員会委員長として、昨今の大学生の就活状況と本学学生の抱える問題点についても説明した。国語力はコミュニケーション能力の基礎であり、数学力は論理的思考力の基礎である。国語(日本語)に関しては「日本語コミュニケーション」に任せるが、数学に関してはこの「基礎数学」が担当している。3 年生も後半になると就職活動が本格化するが、近年の不況によってどの企業も自社内で一から社員の教育を行えるほど余裕がなくなっている。少なくとも基礎学力に相当するもの、あるいはそれをベースにした基本的な仕事能力などは、大学の

卒業段階で身につけていないと採用しない方針になっている。すべては採用試験の第一段階としてのペーパーテストである。

本学の就職課では独自にSPI試験(言語、非言語)対策を講座として開講しているが、それはこのような現況をかんがみてのことである。基礎数学の内容は一部のできる学生からみれば非常にレベルの低いものとして目に映るかもしれないが、ここは油断大敵。馬鹿にせず真面目に取り組んでもらいたいと思う。

③後期に向けての改善内容と方策

後期は前期の「基礎数学 I」に続く「基礎数学 I」を担当している。前期もそうだが、教科書(市販の数学検定試験用の問題集)が指定されておりそれに沿って授業を行う。すでに周知の通り、この科目は実力のみが問われるので、期末試験の成績が 100%である。この方針は変わらない。

基本的には各自が該当する問題を自主的に解き答え合わせをすることで実力を養う。「自己管理シート」を毎回の授業で配布するので、前期と同様、間違った問題や解法がわからなかった問題を 把握し、教員の手ほどきのもと苦手の克服ができるように手当てしたい。

科目コード 14050	科 目 名 基礎数学Ⅱ	
-------------	-------------	--

①自己評価

アンケートの回答数も少なく、また、科目の性格上自己評価は行わない。

②評価に対する教員の思い

「プリントをつかった授業をずっとしてほしかった。」との意見があったが、個々の学生の理解や進度に合わせて問題演習を行っていく必要があり、少人数とはいえ、クラス全体での授業をずっと行っていくのは、科目の性格上無理があると思われる。今回作成していたプリントはある程度まとまったらサブテキストのような形にしようと思っている。

「もっと人くるようにしてください」との意見はもっともである。今期は学生の自主性に任せる 面が大きかったが、後期以降に関してはより出席を促す方向での対策を考えている。

この科目は、入学時にプレースメントテストを行い、その結果で振り分けられた学生が受講する 科目で、全学で連携して行っていく科目でもあるので、教員一人ひとりの自己評価といった現在の システムにはなじまない。

③後期に向けての改善内容と方策

後期は「基礎数学 I,II」とも担当していない。前期の反省点も踏まえて、今後の担当者の会合で改善の方策を練っていく。対策の一つとして、「出席状況の改善に関しては、出席が少ない学生に対しては後期試験の受験を認めないという方法で行っていくこととなった。これによってどの程度出席状況が改善し、また、単位修得者の割合が上昇するかは未知数であるが、現状より良くなることを期待している。

2011年

教員コメント

科目コード 13004	科 目 名 基礎数学Ⅱ	
-------------	-------------	--

①自己評価

元々1クラスだけⅡの内容で、全体的に優秀な学生が集まっていたため、特に苦労することも無く授業進行ができて、個人的には負担が少なかった。その点は、自分自身ではなく、学生のおかげだと思う。

②評価に対する教員の思い

予想通りというか、元々の授業内容が平易な内容であるため、優秀な学生には退屈だったかもしれない。想定レベルの差異が思った以上に大きかったということだろう。ただ、あくまでリメディアル教育なので、その点に関しては学内での今後の検討課題というところではないだろうか。

③後期に向けての改善内容と方策

後期は再履修クラスの担当となるので同じようには行かないと予測している。そのため、学生の モチベーションをより明確にあげる方法を用意する必要であると考えている。

2011年

教員コメント

科目コード 22001	科 目 名 キャリアデザイン I	
-------------	------------------	--

①自己評価

「説明のわかりやすさ」「話し方の聞き取りやすさ」「学生の理解度を確認しながらの進行」「授業に対する熱意・意欲」「私語対策」「総合的満足度」について 3.0 以上の評価を得ているので一定の満足を得たと考えられる。中でも「授業に対する熱意・意欲」が 3.26 と最も高く、こちらの意図するところが伝わっていると推察される。ただ、難易度、私語の多さについてはそれぞれ 2.7、2.69 という少し低い評価である。しかし、難易度についてはこれを維持したいので、良い評価は得ているところで、特によりわかりやすい説明、学生の理解度を確認しながら授業をすすめ学生の学習意欲を高め、成長を促していきたい。私語ついては、学生たちの自由記述にもあるがもっと厳しくしていくこととともに私語をしない方が得だと思わせる授業を展開したい。

②評価に対する教員の思い

○※#□×台ルマの北茶中央1 上然

「説明のわかりやすさ」「話し方の聞き取りやすさ」「学生の理解度を確認しながらの進行」「授業に対する熱意・意欲」「総合的満足度」について 3.0 以上(概ね 80%以上)の評価を得ており、一定の満足を得たと考えられる。「話し方の聞き取りやすさ」「授業に対する熱意・意欲」は 3.4 以上の評価を得ているのでこちらの意図が伝わっていると推察される。問題は私語である。私語対策は 2.95 と一程の理解をされているものの、実際の仕事の多さは 2.51 と全体の中では評価が低い。私語ついては、学生たちの自由記述にもあるがもっと厳しくしていくこととともに私語をしない方が得だと思わせる授業を展開したい。

③ 仮期に回り	しい以番内谷と万束		

科目コード 21100	科	目	名	キャリアスキルアップ I
-------------	---	---	---	--------------

①自己評価

全体の評価をポジティブな意見、ネガティブな意見と2分割すれば、全ての項目において80パーセント以上がポジティブな意見になっており、単に学生の満足度という視点からすれば高評価である。

教員の説明のわかりやすさや、話の聞き取りやすさも高評価にはなっているが、約半数の学生は、 授業の難易度が高いと答えている。しかし展開している授業は決して高度な内容ではないため、も っと具体的な説明を心がける必要性を感じた。

②評価に対する教員の思い

この授業に対する受講意欲についても、80 パーセント以上が意欲的だと答えている。しかし講義に出席している学生だけの意見であり、当日欠席している学生も多くいる。これは、学生に出席する意欲を引き出せる講義が出来ていない可能性もあるということを考え、今後も興味ある講義内容の構築に努めたい。

③後期に向けての改善内容と方策

具体的な内容を示して理解のしやすさを強化したい。理解度を高めるとともに授業内容に興味を持って受講意欲を高めるためにも、後期は視覚的な教材をもっと活用することを考えたい。 また、私語については引き続き注意を促し、学習環境を整えたいと考えている。

科目コード 13100	科	目	名	TOEIC対策英語I
-------------	---	---	---	------------

①自己評価

回答者は総じて出席率が高く(設問 1)、意欲がある(設問 3)学生である。ただ、履修者数 14名に対して回答者は 8名にとどまる。欠席者はおおむね長期欠席中であり、単位取得を諦めているように思われる。この層をどうやってすくい上げていくかが毎年の課題である。

回答者に関しては、教員への評価(設問 6-9)、総合的満足度(設問 12)ともに問題ないと感じているようだ。ただし、難易度に関しては「適当」と「やや難しい」に二分されており(設問 5)、よりかみ砕いた指導を必要としている層の存在が伺われた。

②評価に対する教員の思い

TOEIC は世界的に認められた英語能力認定試験であり、客観的な評価基準が存在する。本学の学生のレベルに合わせて授業の難易度を下げれば、単位は取れるかもしれないが、本当の意味での「TOEIC 対策」にはならない。教員はその兼ね合いに毎年苦慮している。

せめて、試験対策というこの授業の特質を認識し、自分の力を伸ばしたい、試験に挑戦したいという気概をもって履修してほしいと思う。少なくとも、テキストや辞書を忘れる、PCの目的外使用に興じるなどは論外である。

③後期に向けての改善内容と方策

前年度より授業回数が1回増えたことを利用して、前期試験の前に模擬試験を行い、詳細な解説を加えたので、試験対策としてはかなり向上したと思う。それがかならずしも成績向上に結びつかなかったのは残念であり、後期はいっそう丁寧な指導を心がけたい。

科目コード 53100	科 目 名 英会話 I	
-------------	-------------	--

①自己評価

授業で特に気をつけている点は、ネイティブである自分が英語を学生たちに話す際のスピードで、日本語でいうところの「滑舌」良く、はっきりと、また一つ一つの単語をできる限り明確に話しつつ、ネイティブらしくできる限り自然なスピードを保つようこころがけている。これが恐らく学生の問7の教師の話し方が分かりやすいかどうかの項目に関係してくると思われるが、「かなり聴き取りやすい」「やや聴き取りやすい」が回答9のうち8名なので、このままの方法で会話授業を進めていくべきかと思っています。また、満足度については、「かなり満足している」「やや満足している」が回答9のうち9名全員であるので、学生にとって総合的に分かりやすく役立つ英会話授業ができているのではないかと思っています。

②評価に対する教員の思い

私の授業では留学生もおり、会話レベル差があるものの、学生たちとの意思疎通はできているつもりであり、分からない点は常に質問を直接するよう学生に指導しています。ネイティブに対して質問をすること自体も会話授業の一環であり、学生達には役に立つものであると思っています。質問項目の問2にもその結果があらわれているので、学生達も進んで質問しようと努力していることが分かり、このままこの方法を続けていこうと思っています。

③後期に向けての改善内容と方策

前期・後期と授業内容に差をつけているわけではないが、日本の教育システムは春から開講されるので、前期よりもステップアップした授業内容をこころがけています。ただ、後期から授業登録をする学生達が含まれることも承知しているので、授業初日の学生達の状況を見ながら授業の難易度を調整するようこころがけています。

科目コード 22101	科	目	名	インターネット英語 I
-------------	---	---	---	-------------

①自己評価

今回のアンケート項目の中の主と思われるものについて見ると、まず難易度は「難しい」が8割近くもあったが、説明と話し方についてはプラスの評価が8割近くあったので、難易度の問題はこれでかなりカバーできているのではないかと思う。満足か否かについては「満足している」が4分の3あったので、私語が非常に多いという大きなマイナスもこれで少しはカバーできたと考えたいところである。

②評価に対する教員の思い

とにかく私語が多くて困るという声が圧倒的に多かった。私自身にももちろん大きな原因があるにしても、これは本学の現状のゆゆしき部分であろう。確かにまじめに受講している学生にとっては大きな迷惑であり、私自身ももちろん責任を感じてはいるが、社会に出てからいつも静かで理想的な環境で仕事ができるわけではないだろうし、騒々しい劣悪な環境にあってもそれに動じることなく自分のテーマや仕事にまっとうできる強さを身につけていくことも大切のことだと思うし、また今回のこのことについてはこのように前向きに考えてみることもできるのではないだろうか。

③後期に向けての改善内容と方策

後期がまだ始まったばかりであるが、後期の受講生は前期の6割程度に減り(それでも42名)、前期は異常に多かった留学生も激減したせいか、1回目の授業では私語は前期に比べてはるかに少なくなったため、真剣に受講したい学生にとっては環境はずっとましになったのではないかと思う。だからと言って私語がなくなったわけではなく、今度は一部の日本人学生がややうるさいという状況である。前期では私語はともかくとして、そして上記①でも見たように難易度以外はそれほど大きな問題はなかったようなので、受講生にとって難易度が高いという多くの声(世間一般のレベルで見れば決して難しい英語を読んでいるわけではないと私字自身は確信しているが)をしっかりと受け止めて、それを前期と同様に他方においてはまた分かりやすいという評価に持っていくような授業を後期も続けていきたいと思う。そしてはるかに少なくなったとは言え、私語にたいしては毅然とした態度で対処していきたいと思う。

教員コメント

科目コード 43100	科 目 名 日本語(文章表現) I	
-------------	-------------------	--

①自己評価

日本語能力をつけるための授業は、とかく単調な練習問題のトレーニングになりがちである。この授業は 2 年次生対象の上級クラスであるから、日本語の特色や日本語の歴史的な事象についても解説することを心がけた。そのため、難しさを感じる学生がいたように思われる。しかし、言語の学習はその言語の背景にある文化を学ぶことでもある。したがって、日本語能力の向上を目指すだけではなく、日本語の背後にある歴史・文化もあわせて学ぶ授業を行う方針である。

②評価に対する教員の思い

想定外のマイナス評価はなかったと認識している。

③後期に向けての改善内容と方策

私語対策と授業運営上の必要から座席指定を行っているが、授業アンケートの結果を概観する と、一定の効果をあげていると評価できよう。留学生(中国)は同姓の者が多い。座席指定をする と顔と名前が一致しやすいので、授業運営がやりやすい。今後もこの方式で授業を行う。

教員コメント

科目コード 23102	科 目 名 日本語(文章表現) I	
-------------	-------------------	--

①自己評価

自己評価・評価に対する教員の思い・後期に向けての改善内容と方策

4月に独自のアンケートを実施した。学生の要望や能力試験の人数なども確認し、常にそれを念頭に置いて授業したが、「日本語文章表現」であり、書くのが基本であるため、両立できてないと思う。

学生の出席がよくて、大半の学生は受講意欲があった。「先生の説明の分かりやすさ」、「話し方」、「先生の熱意や意欲」については、学生も評価してくれた。しかし、理解深めるために、復習に重きを置き、学習をすることが望まれるが、復習している学生は殆どいなくて、配布したプリントと持参したいものが多い。

少数の学生は、授業中寝たり、携帯を弄ったりしていた。ノートを取る習慣がなく、配布したプリントも終わり次第廃棄した。(ファイルに綴じてほしいと要求したが)この授業は、成績以外、 出席、学習態度、宿題なども重視している。

学生からも映像、音声などを利用してほしいと要求がありましたが、大学の事情で解決するのが 難しい。

今後、総合的な満足度をあげること。

②評価に対する教員の思い

③後期に向けての改善内容と方策		

教員コメント

①自己評価

この科目を受講する学生は、一般学生が7名、スポーツ関係の学生が15名。大半の学生の出席 状況が良好であったが、一部の欠席の多い学生、私語の多い学生がいた。基礎から学び、常に順番 を追って、全員に会話練習の機会を与えた。その場ですぐに理解して覚えられるが、ノートを取ら ない、復習しない学生が多いので、すぐに忘れる。そのため、授業中復習の時間の長くなり、なか なか進めないのが現状である。授業については、学生も評価してくれた。毎回、復習のプリントを 作成して配布したり、単語カードを作ったり目標達成に努力したが「難しい」という声もあった。 でも、少しずつ成果が見えて、嬉しく思う。

できれば、音声、映像などを利用して有効的な内容にしたい。	
②評価に対する教員の思い	
③後期に向けての改善内容と方策	

教員コメント

科目コード 33004	科 目 名 メディアを考える	
-------------	----------------	--

①自己評価

難易度について「難しい」と「やや難しい」の合計が 7 割近くある一方で、教員の説明が「分かりやすい」「やや分かりやすい」の合計で 9 割を超える。少し矛盾した結果にも見えるが、それぞれに理由があると思われ、「授業をより易しく、説明を一層分かりやすく」との要望と受け止めた。

②評価に対する教員の思い

毎回出席者が半分程度で、受講意欲もあまり高くないのを残念に思う。授業のどこに原因があるのか検討したい。

③後期に向けての改善内容と方策

後期は別の科目になるが、今回の結果を参考に、出席を多くする授業、意欲を刺激する授業へ向けて、主に難易度の改善に取り組む。

教員コメント

1 I I 10	10101	TH		H	TR / N. H. A. N. A. M. A.
科目コード	42101	枓	目	名	現代社会と化学

①自己評価

化学のような歴史と伝統があり正確な知識の獲得が要求される科目は、教科書が必要であると考えています。卒業後も特にものづくり産業に関係するようになれば必ず役に立つ、しまもわかりやすい記述の教科書を選んでいます。「説明がわかりにくい」、「聞き取りにくい」、「理解度を確認していない」の約20%の意見は、教科書を持たないことが主原因ではないかといぶかります。どんなものごとでも結果を得るためには条件が必要です。ノートの用意もせず、教科書も持たず、ただ漫然と聞いていてわかり理解できるというようなことは科学に関してはありえません。

	一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
(2	②評価に対する教員の思い
(3	②後期に向けての改善内容と方策

科目コード 33003	科目名日	日本の歴史
-------------	------	-------

①自己評価

出席率についてこれまで担当していた専門の授業に比べて非常に高いように思うが、全体の平均がわからないので、評価しがたい。授業を理解するための工夫はほぼノートをとることのみであり、より広い理解を得るための勉強方法へ誘導する必要がある。意欲については教養科目であることを考えれば比較的高いと思われるが、これも全体の平均等の統計資料がなければ評価できない。難易度については留学生と日本人学生が混在しているので、母集団ごとの分布率がほしい。難度自体は高くないはずだ。授業がわかりやすいかどうかについては、高評価であるとは思うが、全体との比較ができないので判断できない。理解度を確認しながら進めているかどうかという点については昨年までは低かったので工夫の結果が表れてきたと思われる。ただしこれも留学生と日本人学生でまったく評価が割れている可能性があるのではないかと思う。私語が多いという点については頭を悩ますところであるが、善処したい。満足度は最も重要な指標であると思われるが、これも全体の統計の中で位置づけなければ意味が分からない。3を超えているということについては悪くないとしか言えない。

②評価に対する教員の思い

全体の中で位置づけられないので主観的な自己評価にならざるを得ないが、初めて担当した授業であることを勘案すれば、よくやったといえるかもしれない。ただし①でも書いたように留学生と日本人学生の間で意欲、学力(日本語能力も含む)、受講態度に相当の差があり、分布だけを見ても本当のところがなかなか読み取れない。私語対策は数年前の学生に比べれば容易になったと思う。もう少し厳しくしてもよかったと反省している。

③後期に向けての改善内容と方策

授業の内容、方法については少しづつ改善していくしかない。特に副教材を充実させていきたいと思う。この調査だけでは問題点が浮かび上がってこないが、シラバスの充実という点で、WEBシラバス等の導入も含めて考えたい。現状の半ページのシラバスでは内容の説明はできないし、単に15回の授業のタイトルを並べただけでほとんど紙幅がなくなってしまう。シラバスを読まなかったという学生が5分の1程度いるので、シラバスを利用しなければ授業に出席しても意味がないといえるような充実したものにして、全員がシラバスを熟読したうえで授業を履修するようにもっていきたい。

最も評価の低いのが私語対策である。もう少し頻繁に注意するようにしたい。

科目コード 53002	科	目	名	認知行動の心理学
-------------	---	---	---	----------

①自己評価

受講生の多くが1回生であったことから、「認知行動」領域に特化した内容だけでなく、一般的な心理学の概念についても説明を充実させた。その際には、身近な素材を取り上げるなどし、受講生が心理学に興味・関心をもてるよう心がけた。

テキストではなく穴埋め形式のプリントを使うことにより、授業の流れをまとめやすく、また重要な専門用語が分かりやすいよう心がけた。

受講生が多かったので、毎回の小レポートを活用し、相互作用的な授業を目指した。

②評価に対する教員の思い

アンケート結果を見ると、授業内容が「役立つ」、「分かりやすい」などに一定の評価が得られていることから、上記の「相互作用的に」「分かりやすく」「興味を喚起」できるような授業を目指した教員としての努力はある程度成果を得られたと考える。

しかし、「難しい」と感じた学生が多いという結果からみて、学生の理解度や興味・関心に沿った 内容という点で不充分なところもあった。また、私語に対する注意が不充分との評価もあった。真 剣に授業に取り組もうとしている学生に対して、申し訳なかったと思う。

③後期に向けての改善内容と方策

後期の担当授業も 1 回生の受講生が多いため、引き続き分かりやすく、学生が興味や関心をもてるような内容で授業を行う。

私語対策については、頻回に注意をするなどは改善につながると思われないので、授業にメリハリをつけ、より多くの学生が興味をもてる内容にすることを目指したい。そのために、映像資料などを用いたり、内容に関連のあるワークを取り入れるなどの改善を予定している。

科目コード 33101	科 目 名 情報処理論	
-------------	-------------	--

①自己評価

コンピュータを用いた情報処理の手法を学習することを目的として授業を構成した。情報処理計算を記述するプログラミング言語として C 言語を使用し、データ処理計算に使える応用ソフト作りを目指した。このため、初歩的な C プログラムを例にとり、まず必要な C 言語の学習を 2 回で終わる予定だったが、受講生は既にこの時点で C 言語が苦手に見えたので C 言語の学習回数を増やして対応した。このような事情から、データなどの処理ソフトを授業時間内に実行できるように作成することは困難と判断して、テーマ毎のデータ処理方法とプログラムの内容の説明の資料を配布し、テーマに合わせた実行可能なプログラムを私の教材フォルダからダウンロードして利用できるようにした。とにかく、プログラムを実行して何らかの結果をだすことができる。更にプログラムの一部を修正・追加して別のプログラムを作ることもできる。授業中の説明をしっかり聞く必要があると気づいてもらうため、毎回最後の $10\sim20$ 分を使ってその日のテーマに関連する小テストを実施した。小テストはその日にやった授業の内容に対する理解の確認という意味がある。また、同時に受講生の質問に答える時間にもなっている。

②評価に対する教員の思い

非常に難しいと感じる学生が多いが、予習復習をほとんどしないことがその一因であるように思う。初めは少し分からないと感じても、授業時間外で30分でも時間をとって復習すれば、徐々に分かるようになるものである。しかし、実際には復習している者はいない。練習問題に対しても、考えるのではなくその答え(結果)だけを知ろうとする傾向がある。その結果に至るプロセスについて考えることが、「分かる」ことに結びつくはずである。

③後期に向けての改善内容と方策

与えられたこと以外自分で調べ発展させようとしないことが、授業内容に対する理解不足となっている。小テストだけでなく、宿題などの提出を課すことで、授業時間外学習を増やし復習する時間をもたせることができるのではないかと考える。

教員コメント

科目コード	23101	科	目	名	科学技術論
1					

①自己評価

「わかりにくい」の30%の意見について。講演録を集めたテキストですから、持っていれば記

	述は分かりやすいはずですが、テキストの記述に関連して参考のために説明する科学技術そのもの
	の内容はあるいは難しいかもしれません。それらは、科学技術論の本筋からみれば参考にする内容
	ですから完璧な理解が必要なわけではありません。その点聞き分けできるように工夫したいと思い
	ます。
2	評価に対する教員の思い
•	
3	後期に向けての改善内容と方策
3	後期に向けての改善内容と方策

教員コメント

科目コード 34100	科 目 名 科学の	の成立と展開

①自己評価

「聞き取りにくい」の23%の意見、マイクを使い、発声のコントラストには気をつけているつもりですがしゃべり方が速すぎるかもしれません。歴史的事実をできるだけ多く伝えたいという気持ちからですが、今後教材の内容としゃべり方両面の改善を工夫しましょう。

②評価に対する教員の思い	
③後期に向けての改善内容と方策	

教員コメント

科目コード 52004	科 目 名 奈良の文学と風土	
-------------	----------------	--

①自己評価

授業で扱う時代は、8世紀を中心とした奈良時代である。その時代の実態を実感するために、できる限り生資料(編纂されたものではない資料)の姿を提示することを主眼に置いた。そのため、多少難しさを感じた学生もいたようである。適宜、原文のニュアンスを崩さない程度の現代語訳を提示するように努力する。

②評価に対する教員の思い

想定外のマイナス評価はなかったと認識している。

③後期に向けての改善内容と方策

私語対策と授業運営上の必要から座席指定を行っているが、授業アンケートの結果を概観すると、一定の効果をあげていると評価できよう。今後も座席指定を行う方針である。但し、前の方に座ることを希望する学生に対しては、希望しやすい環境を提供できるよう努力する。

科目コード 14002	科 目 名 環境を考える	
-------------	--------------	--

①自己評価

本講義「環境を考える(地球と環境)」の履修登録者 62 名のうち、出席率 50%以上が 8割強、75%以上が 6割弱であった。授業評価アンケートの回答者 45 名は履修登録者の約 7割であり、アンケート結果には、出席率のよい学生の意見が強く反映されていると考えられる。本講義では、「自然災害とその対策」をテーマとして地震や台風など日本において体験する可能性のある災害を取り上げた。今年は、3月11日に東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)が発生し、地震と津波による被害に国民の関心が高まっている時期でもあり、できるだけ映像資料を使って疑似体験しながら、自然災害のメカニズムやその前兆について説明を行なった。ただし、解説時に数式や化学式を利用したため、「やや難しい」を含め「(問5)授業の難易度が高い」75%と、講義内容を難解に感じた受講生が大半を占めた。昨年度の同質問の結果(90%)と比べて若干の改善はみられたが、まだ検討の余地が高いと言える。私語対策については、適宜対応するように心がけたものの、常に静寂な環境を保証することはできなかった。

②評価に対する教員の思い

「(問3)受講意欲がある」学生が 84%と多く、受講生には授業に積極的に取り組む姿勢があったと考えられる。回答者の 84%が「(問8)学生の理解度を確認しながら授業を進めている」と評価していただいたが、授業の後半に入ると、用意していた題材を伝えようとするあまり、受講生の状況を把握せずに授業を進めてしまうことが多かった。大多数の受講生が「(問 10)授業中の私語が多い」69%と感じており、事実、教室後方での私語が特に多くみられ、授業中に制御しきれなかったことは反省材料である。「(問5)授業の難易度が高い」75%という指摘が多いが、あまりやさしくしすぎでも自分で噛み砕いて理解する訓練にならないという思いもあり、どの程度までわかりやすくするのかについては対応に悩ましい点がある。

③後期に向けての改善内容と方策

「(問 12)授業に満足している」学生が 95%を占めており、配布資料やビデオ教材を取り入れた講義形態については大きな問題はないと考えている。ただし、大多数の受講生が「(問 5)授業の難易度が高い」75%と感じたことから、少なくとも受講生が自分なりに理解できるように講義内容や伝え方には工夫が必要であろう。今年は、地震や台風、洪水、土砂災害など、様々な自然災害が発生している。そうした直近の災害を積極的に取り上げて、活きた授業を展開していきたいと考えている。その際に、受講生の一部で発生する私語を抑えるため、発問など、授業内容に関連した受講生の発言を促すような仕掛けが必要かもしれない。

科目コード 31005	科	目	名	地球の科学
-------------	---	---	---	-------

①自己評価

本講義「地球の科学(地球科学)」の履修登録者 94 名のうち、出席率 50%以上が 8 割強、75%以上が 6 割弱であった。授業評価アンケートの回答者 34 名は履修登録者の 4 割弱であり、アンケート結果には、出席率のよい学生の意見が強く反映されていると考えられる。成績評価に出席点を考慮しているにも関わらず、履修登録者数の割には授業出席者が少ないことには問題が残る。本講義では、「地球の歴史」をテーマとして、太陽系が形成された 46 億年前から現在まで地球が経験してきた大規模な自然現象を取り上げた。そのメカニズムを解説する際に物理学や化学の知識を利用する場面もあり、「やや難しい」を含め「(問5)授業の難易度が高い」76%と、大多数の受講生が講義内容を難解に感じていた。ただし、昨年度の同質問の結果(100%)と比べると、若干の改善が見られた。今年度に関しては、この講義における私語はさほど多くなく、「(問 10)私語が多い」と感じた受講生も 27%にとどまった。ただし、授業中の私語が気になる場面もあり、常に静寂な授業環境を用意することはできなかった。

②評価に対する教員の思い

「(問3)受講意欲がかなりある」学生が 91%と大半を占め、受講生は積極的な受講態度で授業に取り組んでいたと推察される。「(問8)学生の理解度を確認しながら授業を進めている」85%との回答が多かったものの、伝える一方の場面が多く見られたのではないかと反省している。この点は他の講義科目「環境を考える(地球と環境)」と同様である。時間的な余裕をもって、受講生にも考え、発表する機会をもうけながら、講義を進めていく必要がある。履修登録者数は多かったが、実際の授業ではその半数程度しか出席しなかった。開講時間が1時限目という影響があったのかもしれないが、それでもなお積極的に出席したいと思わせる授業内容にしていく努力は必要と言える。

③後期に向けての改善内容と方策

「(問 12)授業に満足している」学生が 85%を占めており、配布資料やビデオ教材を取り入れた講義形態については大きな問題はないと考えている。ただし、大多数の回答者が「(問 5)授業の難易度が高い」と感じたことから、数式や物理学の概念をわかりやすいように表現するなど、講義内容の伝え方には工夫が必要と判断する。授業中に受講生の理解度を確認し、柔軟に授業を軌道修正できるだけの準備を行ない、受講生が考え、発言する仕掛けを考えていく必要がある。大講義室における完全な私語対策は困難をともなうが、受講生が考えたり、作業する場を設けたりすることで、私語を忘れて授業に取り組む姿勢を引き出すことができるようにしたい。

科目コード 32005	科 目 名 コーチング論	
-------------	--------------	--

①自己評価

毎回、プリントを用意し、そこに授業内容を書き込ませて作業をさせる。そのプリントは、試験 時に持ち込み可能としているので、書き込まないと試験のとき分からない。授業終了後、すぐに提 出させ、居眠りなどをして書き込んでいないとチェックしている。

また、私語対策として、座席指定にし、好きなもの同士が集団をつくらないようにしている。 座席指定にしていると受講生の名前が覚えやすく、このことが学生への牽制となり、アンケート評価に現われていると思われる。

しかし、プリント作成とチェックは大変な労力であり、限界がある。また、これが大学の授業なのかという迷いはある。

②評価に対する教員の思い

授業の改善目標を、授業アンケートの評価を上げることとしていたので、その対策が本学学生の 実態にあったのであろう。

もう少し、学習意欲を持ってくれるとありがたいが。

③後期に向けての改善内容と方策

特になし。好評価だったので、後期も継続し、後期授業アンケートの結果を見てみたい。

科目コード 34003	科 目 名 税制から見る日本経済	
-------------	------------------	--

①自己評価

<受講意欲>では「まあまあ意欲がある」以上が100%ということであり、<総合的満足>が「かなり満足している」58.3%、「やや満足している」41.7%ということであり、一定の評価が与えられたものと考えている。それ以外の項目についても<説明の分かりやすさ>で「かなり分かりやすい」41.7%、「やや分かりやすい」58.3%、<聞き取りやすさ>で「かなり聞き取りやすい」50.0%、「やや聞き取りやすい」50.0%ということで、ある程度の評価が得られたと思っている。ただ、最高評価のパーセンテージを上げるべく努力する余地もあることは当然である。

私語に関しては、<私語の多さ>で「少ない」90.9%ということで、自由記述で「全く私語がない」、「私語する人がいないので対策する必要がありませんでした」と書いてくれているように、受講生の受講態度がとても良かったことはたいへん有り難かった。

②評価に対する教員の思い

履修者 12 名の授業で、受講者はとても真面目な学生ばかりであり、授業遂行がとてもやりやすかったことについて感謝したい。

③後期に向けての改善内容と方策

授業内容として、<難易度>で「かなり難しい」25.0%、「やや難しい」58.3%、「適当である」16.7%という点については、科目の性格上、ある程度納得のいく数字である。受講生の1年次生にとって少し難しい内容も含まれるが、"日本経済"や"税制"について今後の学習に興味を持ってもらいたいという主旨であり、その点が満たされていれば十分だと考えている。ただし、あまりに難しすぎるということは問題であり、「やや難しい」レベルに収まるように今後とも補足プリントの充実を図るといった工夫で改善していきたい。

科目コード 14004	科	目	名	経済の仕組みとビジネス
-------------	---	---	---	-------------

①自己評価

授業評価アンケートの項目は、学生の自己評価項目を除けば、当該授業科目の内容について(設問項目 4,5)、教員の態度および授業技術について(設問項目 6,7,8,9)、授業中の教室内環境について(10,11)、授業の総合的満足度(設問項目 12)の4つに分けることができる。どの項目も肯定派と否定派が7対3くらいの割合で分かれている。過去の私の当該科目に関しての授業評価のなかでは最も悪い評価結果である。この低評価はいかなる原因か、いまひとつわからない。

②評価に対する教員の思い

これ以上ないというくらい板書し、復習を兼ねて前回の授業のおさらいをしている。この科目は経済学の基本的な道具立てと分析手法をまなぶことを主眼としているため、どうしても簡単な数式とグラフについて知識が必要である。文科系学生の数学に対するアレルギー・拒否反応を十分に考慮しつつ、説明は懇切丁寧、説明の省略等は行っていない。ましてや、ビジネス学部指定教科書『専門基礎科目(2011年度版)経済の仕組みとビジネス(経済入門)』を新一年生全員配布しており、また、短期留学生や編入学生、情報学部学生などには当該教科書の抜き刷りを配布しており、自由記述欄にあった「授業が不親切で」という学生コメントは承服しがたい。

期末試験については、最終授業で試験範囲はもとより、出題の問題数、出題の形式(論述、穴埋め、作図、計算など)を告知し、期末試験勉強の仕方(ノート、教科書の確認)まで伝えている。また、他の科目の授業では期末試験の厳正さが失われていることが問題視されているが、この授業では、期末試験の諸注意について、『履修の手引き』中の期末試験該当部分、および『奈良産業大学規定集』中の「ビジネス学部ビジネス学科履修規定」第18条(受験上の注意)をプリント化し受講生全員に配布、徹底した注意と不正行為の撲滅に努力している。今回のアンケート結果にはこのような工夫・努力があまり明確に意識されず、低評価に終わっていることが誠に残念である。授業の工夫改善をさらに進めることはやぶさかではないが、学生諸君も様々な他の教科の授業と比べたうえで、本講義の評価をお願いしたい。それは授業アンケートの自由記述欄にでも書けるのだから。

「経済の仕組みとビジネス(経済入門)」は比較的履修者が多く(例年 70~100 名)、しかも学生の属性が4グループほどに分かれていることが分かっている。そのあたりを意識しながら、どのグループでも説明が分かるように常に意識して工夫することを心がけている。約半数が留学生の受講であるが、昨年度(平成22年度)および今年度(平成23年度)は、期末試験の結果(試験の素点)をグラフに描いている。その結果、本来日本語が留学生に比べてはるかにできるはずの日本人学生が、留学生の点数にはるかに及ばない事実が明らかとなった。また、留学生のなかでも、本学に4年間在籍する一般留学生よりも、1年間ないし半年間の短期留学生の点数がダントツに良いことである。つまり日本語力の面では一番ハンディを負っていると思われる短期留学生が、昨年度の平均点が70~80点、今年度の平均点も70~80点であるのに対し、日本人学生の平均点はいず

れの年度も30点台、一般留学生の平均点が40~50点なのである。これは何を意味しているのか。 すくなくとも、短期留学生には私の授業中での説明がちゃんと伝わっているのである。「わかりに くい」「難しい」とのアンケート評価が意外に多かったが、これらの意見を言った学生は、そもそ も論として出席や授業中の集中力に問題は無かったのだろうか。「私語がなく、静粛であった」と の多くの意見を自由記述欄を含めてもらっているから、授業中に先生の声が聞こえなかったことは まずないだろう。ましてや、私の声はマイクを通し、教室内の隅々まで行き届いていたはずである。 情報学部の学生も数人受講しているのでいうと、情報学部学生だから予備知識がなく、よく理解で きなかったということは言えない。

③後期に向けての改善内容と方策

この「経済の仕組みとビジネス(経済入門)」という科目は前期開講科目なので、次年度に向けての改善・方策となろう。この科目は、経済や経済学の理解にとって極めて重要な科目であり、この科目の内容の理解なくしては仕事のできるビジネスパーソンにはなれないといっても過言ではない。そう認識している。現在使用中の指定テキストの内容が必ずしも十分ではなく、また、現在の激しい経済状況の変化にも対応するためにも、改訂版を作成する予定である。説明の分かりやすさを中心に全面的に再検討し、昨今の国内外の経済問題を具体例としてできる限り教科書に盛り込む努力をしたい。また、教室も前年度・今年度のように黒板しかない教室ではなく、IT機器の揃った教室をなんとか確保し、視聴覚教材を使用することも検討中である。また、授業への欠席学生へのケアとして、IT技術を使った何らかの方策を考えてみたい。現行では学内PCにログインした際のデスクトップ上にある「教材箱」にプリント資料を入れてあるだけである。

別の観点から残念なことが一つある。経済系入門科目として「経済入門」と双璧をなした「経済統計入門」が 2011 年度生より廃止され、仕事のできるビジネスパーソンへなるためのカリキュラムの一角が崩れてしまったことである。「経済統計入門」はGDPや物価指標、失業率、エンゲル係数、国の一般会計の構造、マネーサプライなど、新聞の経済ニュースや国際ニュースを理解するために必須の知識を講じていた。2年次以降配当の財政学やマクロ経済学、経済政策、国際経済学などすべてに響いてくる。これらの上級科目では逐一こういった基本用語についての説明をしている余裕はないからだ。また、「経済統計入門」はSNA(国民経済計算体系)という国の会計学を扱っており、その意味でもビジネス学部新カリキュラムの基幹科目である会計学(もっぱら企業会計の視点)の趣旨をくむ重要な位置づけを与えるべき科目であったのに。教科書改訂について上で言及したが、廃止された「経済統計入門」の内容を「経済の仕組みとビジネス(経済入門)」に組み込む必要が出てきたと感じている。この面での検討も行いたい。

科目コード 41001	科 目 名 法の仕組みとビジネス	
-------------	------------------	--

①自己評価

学生の出席状況が毎回出席しているという者が半数以上、3分の2程度という者と合わせると9割以上であるから、全体として授業に対する熱意、学習に対する意欲といったものが極めて高いということができる。しかしながら学生自身は、授業を理解するための工夫や受講に対する自己評価が消極的である。特に授業内容の理解につき何ら工夫しなくても理解できているのかというと、講義内容が難しいとする学生の数がやや多い。そうすると単に授業に出席しているだけということになるが、答案を見ていると分量的にも内容的にも全体的に比較的よく書いていると思われる。実際にどの程度理解しているのかということが問題になるが、試験の出題方法を変えてみるのも一つの方法であると考える。

②評価に対する教員の思い

授業の順序は、他の科目と同様シラバス通りに進めており、各回の講義も予定通りに進めているから、次の講義に対する予習はできるはずである。しかし数字的には、授業を理解するための工夫が不足しているとの感はぬぐえない。宿題も各回の重要部分を復習してもらうために出しているが、次の週の授業の始めにする解説が講義の一環として受け身になっているように思われる。私語についてであるが、毎年また科目によっても傾向は違うが、最初の数回は静かであったがだんだんと回を追うごとに私語が多くなっていったように思う。他の学生にも迷惑になるので気が付けば注意している。今年は授業中に食事をしている者がおり厳重に注意した。

③後期に向けての改善内容と方策

授業自体は、順序どおり各回のテーマごとの分量も多くはなく、適切であると考えている。法律学であるからレジュメ以外に判例等の具体的な資料を用意するなどして、学生の授業への取り組みが少しでも興味あるものとなるような工夫もしている。ただ法律学の概念は、他の科目もそうであると思うのであるが、ある程度の法律学的基礎知識や理解を深めていないと、理解が難しい部分がある。そうした基礎的な部分での理解を促進するための講義を時間的に十分確保できないのは、15回の授業であるからどうしようもないところがある。これに対する改善の方策として、メリハリをつけた講義を目指したいと考えている。具体的事件の紹介を回数的に多くするのも一つの方法であると考える。

科目コード 42002	科目	名	政治の仕組みとビジネス
-------------	----	---	-------------

①自己評価

講義対象学生が1年生から4年生まで、多数の留学生と対象学生の受講は的は絞りにくかった。たとえば、留学生用に別のメニューを考慮すべきであったことは反省材料である。双方向の授業を試みるため授業最後に授業の確認事項のレポートを書いてもらい、それを回収の上、次回の最初に前回のレポート課題の模範解答を行う形式で確認をとったことに効果はあったと考える。自由記述で「理解できた」という意見があったが、それに該当する事柄かもしれない。

②評価に対する教員の思い

3に関して、2年生以上は前年までの旧版教材しかもっておらず、そのための新版の抜き刷りを 用意しなければならないが、それは不足し、毎回次回用の部分のプリントを配付した。だから、配 付プリントを見れば、何を予定しているかはわかるはずである。そのあたりをもっと徹底しないと いけないし、2年生以上の教材部数が足りなすぎる点は来年度の注意事項である。自由記述の中で 「授業が不親切で話がわからない」とあるが、もう少し具体的な問題点を指摘しほしい。どの部分 が不親切かどうかでこちらも対策がとるつもり。

③後期に向けての改善内容と方策

私語はまったくなかったわけではないが、困るほどではなかった。多人数の割にこの程度の私語であれば、それほど私語対策ということはない。その都度注意する程度で受講してくれた。

基本的な内容を教える授業だが、様々な学生が対象(例:留学生)となるので、その点を今後配慮するように工夫が必要だと考えている。

難易度が高いとの回答があったが、専門的な内容を教授するのが教員の仕事だから、だれでもわかるやさしい(程度の低い)ことを教えるのでなく、どのようにわからせるかを教員が工夫できるかを反省材料としたい。

教員コメント

科目コード 42001	科	目	名	政治の仕組みとビジネス
-------------	---	---	---	-------------

①自己評価

大半の受講生に学習意欲が見られず、授業時間中、ケータイやお喋りに熱中している。真面目な受講生はせいぜい全体の20%くらいであろうか。

②評価に対する教員の思い

授業は数分毎に私語について注意する状態で、たいへんな迷惑となっている。

③後期に向けての改善内容と方策

私語が生じないような授業の形態や方法を工夫したいところだが、この講義の場合は、さまざまな点からできそうにない。学生諸君の自覚を待つのみである。

科目コード 13101	科	目	名	統計学入門
-------------	---	---	---	-------

①自己評価

3~12 の設問のうち、6 つの設問でイを選んだ人が過半数を超えていた。このことは、この科目への評価が、積極的に良いとは言えないがどちらかといえば良い、といった判断の結果を表していると思われる。目につく結果としては、難易度に関する設問 5 でアとイが 8 割を超えていて、難しいと思っている受講生が多くいること、私語に関する設問 10 でアとイが 8 割を超えていて、私語が多いと思っている受講生も多いということである。私語対策に関する設問 11 からも分かる通り(アとイで 8 割弱)、私語対策をしていなかったわけではないが、十分な対策がとれなかった点で力不足であった。

シラバスを読まない学生が、以前に比べだいぶ減ってきた。自分のシラバスが良くなったというよりも、大学全体での取り組みの結果であると思う。

②評価に対する教員の思い

以前の自己評価でも述べたが、難易度に関しては受講生が適当だと思う難易度よりもやや難しいと感じる難易度の方がより良い授業であると考えている。その点ではこのアンケート結果は一概に悪いと思っていないが、かなり難しいと考えている受講生も3分の1以上いたので、この層の受講生への対策をしていく必要があると感じている。

私語に関しては、今期は特定の学生に対してからかう等の行動をしていた集団があり、からかわれる学生に関しても時に問題行動があり、注意がしずらかった。学生への対応のスキルをもっと身につけていく必要を感じている。

あまり満足していないという受講生が 4分の1もいたので、今後もより良い授業を目指し、こういった学生をなるべく減らしていくよう努力する。

③後期に向けての改善内容と方策

学生支援センター主催の学生相談研修などに参加し、学生への対応のスキルを学習し、日々の実践を通じて身につけていく。また、学生の理解度を確認する機会を増やし、授業についていくのが困難に感じている学生へのケアを行っていく。

科目コート	13102	科	目	名	マクロ経済学
111 -	10102	' '		-	· /LI/1

①自己評価

質問項目12) = 「この授業は総合的に見て満足の行くものですか」と質問項目3) = 「この授業に対する受講意欲はどうですか」に関連してのコメントである。多数派の結果は、ほどほどの受講意欲(52%)に対してやや満足している(68%)という結果と分析する。悪い結果とはいえない。しかし多数派だけでなく少数派に目を転じると、受講に際してかなり意欲がある(20%)のに、かなり満足している学生がそれに満たない(4%)という結果に直面する。履修登録時には受講意欲があったのに授業回数を追うごとに期待を裏切られたという結果を反映するならば、重大である。授業内で受講の諸動機を探り多面的に学生の欲求・関心に応じた授業を行い学生の意欲を頓挫させないような配慮が必要である。同時に受講意欲の高くない学生には関心を引き出すことで受講意欲を高める工夫が必要と考える。

②評価に対する教員の思い

授業の効果を高めるために学生には次の諸点を求めたい。第1は、ノートの作成である。板書されたことだけでなく、口頭で説明されたこと、さらには、自分で調べた結果、自分で考え疑問に思ったことなどを記録・整理してもらいたい。試験だけでなく、将来にわたり、このような習慣は財産になると思う。第2は、配布資料の保管。第3は、受講マナーの維持。これら第2点、第3点については大学生には多言を要しないと思う。

③後期に向けての改善内容と方策

前期はかなりの内容を盛った結果、ワーク・シート的なプリント教材を大部分の授業回で用いた。 結果、授業の進度を上げることができた。しかし、授業時間内の学生の反応、定期試験の採点結果 でわかったが、キー・ワードや計算結果書き込み式ワーク・シートの配布は、学生の理解度を押し 下げる結果になった。後期は、古典的に板書方式(最低限ノートに記録すべき事項の提示)を軸に、 必要に応じプリントを配布することとしたい。筆記することには少なからず思考を伴う。このこと を通じ学生の習熟度を高めることとする。

科目コード 11101	科 目 名 日本経済論
-------------	-------------

①自己評価

授業評価アンケートの項目は、学生の自己評価項目を除けば、当該授業科目の内容について(設問項目 4,5)、教員の態度および授業技術について(設問項目 6,7,8,9)、授業中の教室内環境について(10,11)、授業の総合的満足度(設問項目 12)の4つに分けることができる。どの項目も肯定派と否定派が6対4くらいの割合で分かれている。過去の私の授業評価のなかでは最も評価が悪い結果である。

この結果は自己分析的には、(1)教科書の問題、(2)教員の授業方法の問題、(3)カリキュラム上の問題の3つに起因していると考える。(1)教科書については原田泰 [2008]『コンパクト日本経済論』新世社(1,890円)を使用したが、著者による本文の説明が、日本経済を巡るいくつかの議論を踏まえた上でその文脈の説明なしに独白的な語りになることが多く、日本経済についてのイロハから学ぶ学生にとっては意味不明となることもあったと思われる。実際、授業中ではその隠れた文脈の説明に苦労した。著者自身はこの分野(日本経済)での著名な研究者であり、データ収集や分析はオリジナルなものが多い。したがって日本経済論のテキストとして質的保証はできていると考える。しかし、「コンパクト」の表題のとおり、やや簡素にして雑駁な説明文も散見され、自習用にはやや問題がある。価格の安さと質の高さはある意味トレードオフな面があるが、教科書選定は再考したい。

(2)教員の授業方法については、やや反省しなければならない。教科書の問題が事前に分かっていたので、授業中にも補助教材としてパワーポイント資料をプロジェクターで映したり、その資料を「教材箱」に入れたり配慮したが、説明が不十分であった。あるいは、履修者が二十名を少し切る程度であったので、思い切ってゼミナール形式に変更し、双方向的に質疑応答を通じて日本経済について議論する方が理解度が違っていたかもしれない。このあたり、臨機応変に対応することを心がけたい。

(3)カリキュラム上の問題については、やや言い訳めいた話だが、やはり日本経済論といえども基本的なあるいは社会常識的な言葉について知識が前提される。新聞などで当たり前に使われるGDPや失業率、物価、貿易収支、経済成長率、需要と供給など、これらについては既知のものとしたいところである。しかし仮に大学入学まで知らなかったとしても、本学ビジネス学部では、専門入門科目として「経済入門(現「経済の仕組みとビジネス」)」「経済統計入門」が用意されている。この二つの入門科目は単に経済学を勉強するしないに関わらず、およそ新聞の経済面あるいは国際面が読めるビジネスパーソンになるためには必須の科目である。これら二つの科目が履修済みであれば、日本経済論の受講上の不備はほとんどないはずである。しかし、両入門科目とも選択科目であり、履修せずに日本経済論を履修するという問題がやはり残っている。このあたり、日本経済論の受講に際しての諸注意として、シラバス等に事前に経済入門および経済統計入門の事前履修を促す一文を記しておくべきであった。

②評価に対する教員の思い

当該科目の教員は、日本経済についての知識・理解をできるかぎり学生が達成できるよう工夫し てる。単なる単位取得科目ではなく、日本経済について得た知識が、まさに日々の日本経済を理解 するのに役立つことを意図して授業を行っている。そのため、毎回授業時間の冒頭に前回授業の復 習(おさらい)を行っている。またオリジナルのパワポ教材も作成・配布してる。日本経済に関す る複数の性質の異なるトピックについて関連性をかなり入念に何度も説明している(たとえば短期 の問題=景気変動の問題と、長期の問題=経済成長・構造変動の問題など)。そしてやはり、十分 に内容の理解を促すため、1~2つのテーマの終了ごとに小テストを実施(本年度は 3 回実施) し、理解度を確認しつつ、その小テストの結果も成績に反映している。期末試験一回勝負よりも、 成績挽回の機会が複数回に分けられているのである。期末試験も、最終授業で試験範囲はもとより、 出題の問題数、出題の形式(論述、穴埋め、作図、計算など)を告知し、期末試験勉強の仕方(小 テストの復習とノート、教科書の確認) まで伝えている。また、他の科目の授業では期末試験の厳 正さが失われていることが問題視されているが、この日本経済論の授業では、期末試験の諸注意に ついて、『履修の手引き』中の期末試験該当部分、および『奈良産業大学規定集』中の「ビジネス 学部ビジネス学科履修規定」第18条(受験上の注意)をプリント化し受講生全員に配布、徹底し た注意と不正行為の撲滅に努力している。今回のアンケート結果にはこのような工夫・努力があま り明確に意識されず、低評価に終わっていることが誠に残念である。授業の工夫改善をさらに進め ることはやぶさかではないが、学生諸君も様々な他の教科の授業と比べたうえで、本講義の評価を お願いしたい。それは授業アンケートの自由記述欄にでも書けるのだから。

③後期に向けての改善内容と方策

①の自己評価中に書いたことにも若干重なるが、(1)教科書の問題、(2)教員の授業方法の問題、(3)カリキュラム上の問題は常に注意したい。日本経済論は前期のみ開講の科目であるが、日本経済論とセット受講を勧めている「経済政策」が後期開講科目である。指定教科書があり、日本経済論の教科書よりは少し難度は上がっているが、本が分厚い分説明は丁寧である。価格も3,360円で許容範囲であろう。幸か不幸か履修登録者が少ないので、授業の実施形態はゼミナール形式に変更した。前期の日本経済論の反省が生きて、後期の経済政策は双方での議論が可能となり、学生の理解度が飛躍的に向上している。やや数学的な知識が必要だが、少人数のおかげで十分にフォローできている。今回の経験を他の授業科目でも生かせるはずで、ノウハウを蓄積しておきたい。

科目コード 12104	科 目 名 アジア経済論	
-------------	--------------	--

①自己評価

講義内容を受講生に論理的・実証的に理解してもらうためにはどうしてもボリュームが多くなってしまいます。そのため、私はプリントを配布して講義を行っています。また、学生に講義に集中してもらうために、プリントには筆記部分を設けています。

講義全体の流れや個々の講義内容をより容易に理解できるような、そして集中力を持続して受講できるような授業をするためには、話し方や板書・プリント作成の仕方など、講義に工夫を加えていかなければならないことが多々あると思っています。

カードリーダーの導入によって出席率は以前よりも高くなりました。しかし、授業に集中できない学生も多く、しばしば講義が妨げられました。また、まじめに受講している学生にも迷惑をかけてしまいました。私語対策をどのように講じたらよいのか、これが大きな課題です。

②評価に対する教員の思い

私語については、対照的な意見がありました。一つは、私語対策がきっちりしていたので他の授業よりは集中して授業に取り組めたというものです。もう一つは、私語対策をまったくしていないので非常につらかった、厳しくしてほしいというものでした。

今期の特徴は、うるさいので注意するといったんは静かになるものの、しばらく経つとまた私語を始めるという学生が多かったということです。注意しても静かにしなかった学生には教室から出て行ってもらったこともあります。

学生が耳を傾けてくれるような授業の工夫をするとともに、きちんとした実効性のある私語対策を 取りいれなければならないと思っています。

③後期に向けての改善内容と方策

授業が後半に入ったころから、私が愛用していたワープロに不具合が生じ、プリントの写りに不 鮮明な箇所がところどころ見受けられるようになってしまいました。そのため、後期からはパソコ ンを使ってプリントを作成することにしています。

定期試験はプリント類の持ち込みを許可してほしいという要望もありました。授業では持ち込み可の小テストを 3 回実施し、そして採点した答案を返却したうえで、解説しています。定期試験はこの小テストの中から出題し、しかも出題候補を事前に絞って学生に周知しているので、今のところ、定期試験に持ち込みを認めることは考えていません。

科目コード 31106	科	目	名	環境経済学
-------------	---	---	---	-------

①自己評価

履修登録者数 11、有効回答者数 7 と、統計学的にあまり意味がない気もするのですが、昨年度のアンケート結果と比較して、おおむね以下の傾向が読み取れるかと思います。

授業の難易度は、「かなり難しい+やや難しい」が昨年度の79.7%から85.8%へと、難しいと感じる学生がやや増加。説明の分かりやすさは、「かなり分かりやすい+やや分かりやすい」が昨年度の92.8%から57.1%へと、分かりやすいと感じる学生が明らかに減少。学生の理解度を確認しながら授業を進めているかは、「かなり進めている+ある程度進めている」が昨年度の85.7%から71.4%と、やや減少。授業に対する熱意や意欲は、「かなり感じられる+ある程度感じられる」が昨年度の92.8%から85.7%と、やや減少。総合的な満足度は、「かなり満足している+やや満足している」が昨年度の76.9%から57.1%と、明らかに減少。

②評価に対する教員の思い

全般的に昨年度より学生からの評価が低下していますが、昨年度はこの授業に提出されたレポートが社会科学学会主催の学生懸賞論文で佳作に選ばれるなど学習意欲の高い学生に恵まれたおかげもあり、むしろ昨年度が例外的な事態であったのでしょう。

自由記述欄に「提出物が厳し過ぎる」というものがありましたが、1年次後期の「基礎演習」でレポートの書き方を学んだはずですので、それをこの授業に実践してもらえばいいだけの話です。 編入学生は「基礎演習」を履修していませんが、だからこそ、この授業を通じてレポートの書き方を学んでいただきたかったのです。

③後期に向けての改善内容と方策

後期と言うより来年度に向けてですが、改めてレポートの書き方について丁寧な指導が必要であると感じています。おそらく同じクラブの先輩からの入れ知恵かと思われますが、レポートを提出しなくても他で点数を稼げば何とかなるという認識が広がりつつあるようですので、レポートの提出が単位認定の必要条件となるよう成績評価基準を変更したいと思います。

科目コード 32105	11 D 10 L	企業論
-------------	-----------	-----

①自己評価

今回は水曜日と木曜日に回答いただいた結果について両日の平均値に関して返答させていただいております。

手書きの回答につきましては、「具体的な例を多く用いた説明であったので分かり易い」という評価をいただいていました。しかし一方で「授業の進行が遅い」との指摘もいただきました。具体的に説明をするとともにスピードも考えながら進めていきます。試験の際の持ち込みに関しまして「持ち込みにしてほしい」という意見がいくつかありましたが、これに関しましては授業の最初で説明させてもらっていますように、持ち込みがなくても授業を聞いて、ノートを取り、そのノートを10回以上試験の前に読んでもらえば理解できるような内容であるため今後も持ち込みは認めない方向で考えています。質問やわからないところがあるときには必ず担当者に声をかけてください。私語対策に関しましては、注意した後も話を続ける人がいるとの指摘ですが、これに関しても厳重に注意し私語をなくしていくように工夫いたします。

②評価に対する教員の思い

説明のわかりやすさに対する項目について、「かなり分かりやすい」、「やや分かりやすい」が併せて93.15%でした。今後も事例を用いながらなるべく分かりやすく、難しい内容につきましては繰り返しいろいろな方向から説明するように心がけます。話し方もスピード、明瞭さ等に気をつけて話すようにしたいと思います。また授業に対する熱意を感じられるかとの項目につきましては「かなり感じられる」、「ある程度感じられる」を併せて96.8%という結果ですが、100%の回答をいただけるように専門分野、それに関連する時事問題などできるだけ授業に興味を持っていただけるような内容について取り組み説明していくように心がけます。総合的な評価では「かなり満足している」と「やや満足している」を併せて90.3%となっていますが、1割の方が「あまり満足していない」と回答いただいています。この1割の方に満足いただけるような授業を心がけていきます。

③後期に向けての改善内容と方策

今後はこれまで以上の評価をいただけるように精進して参ります。まずは「私語対策」を厳格に行っていきたいと考えています。授業を快適に受けていただける環境作りも非常に重要なことでありますので私語に対する注意は一度だけでおさまらない場合は何度も行うようにします。また難易度の項目について「かなり難しい」、「やや難しい」と併せて 75.8%の方が感じておられるとの結果でした。4人に3人は難しいと感じておられるようですので専門用語や専門的内容を説明するにしても平易な文章でできるだけ分かりやすい事例を用いながら進めていきたいと思います。ただし専門性についてのレベルは下げないように工夫していきます。①自己評価でも書かせていただきましたが、質問や疑問などがありましたら遠慮なく申しつけください。改善できるところは改善していくように努力します。

科目コード 31105	科	目	名	経営倫理学
-------------	---	---	---	-------

①自己評価

今年度は授業の進め方に一定の工夫を加えた。

これまでも私語対策の一環として授業中に頻繁に学生に質問し考えさせるということを実施して きた。今年度は、それに加えて、終了時に課題用紙を配付しそれに質問を記入してもらい、次回の 授業の冒頭にその質問に対する担当者の回答を配付する、という様式で実施した。

このことがどのような「成果」をもたらしたのか、このアンケートからはわからない。

②評価に対する教員の思い

木曜日実施のアンケートで、全く授業に満足していない、という受講生がひとりいる。これが気になる。

③後期に向けての改善内容と方策

上記の方法は、口頭でのやりとりではなく、文章を通じての「意見交換」であるために、これまでよりも多少は学習効果があがり理解度も深まると考えている。

後期も上記の方法を採用して、受講生の反応を見極めたい。

教員コメント

科目コード 11103	科目名	財務諸表論
-------------	-----	-------

①自己評価

今回は初の授業ということで、学生たちの反応を見て色々と試行錯誤しながらの授業進行だった ので至らぬ点も多かったですが、授業内容の概要に関してある程度理解してもらえたのではないか と思います。

②評価に対する教員の思い

授業内容を難しいと感じる学生が若干名いたようなので、その辺りを何とかできなかった点は残 念です。

③後期に向けての改善内容と方策

学生の理解度がより高まるように色々と工夫すべき点はあると思うので、その辺りを今後の検討課題としたい。特に、現実の事例を使って具体的に授業内容の説明ができれば、学生たちの理解もより高まるのではないかと思うので、そういった材料の用意を進めておきたい。

科目コード 23103	科 目 名 原価計算論	
-------------	-------------	--

①自己評価

原価計算の基礎を平易に理解してもらえるよう、詳細なプリントを準備し、プリントを中心に授業を展開した。また、理論だけではなく、できるだけ多くの問題を解くことができるよう、演習中心の授業を実施した。授業の進行については全面的にパワーポイントを採用してわかりやすく学習できるよう工夫をこらした。ほとんどの学生が簿記・会計に関する知識のない学生であり、工業簿記の基礎部分の指導も加えながら説明をした結果、意欲をもって学習する学生もみられたが、反面、内容を消化しきれない学生もいたことについては残念であり、今後の検討課題としたい。

②評価に対する教員の思い

全体的に出席状況はよく、真面目な学生が多いように感じた。学習面では、誰にでも理解できるように平易な内容の資料とパワーポイントを作成して指導したが、学生諸君の中には、初めから難しいと拒否的で、頑張って学習しようという姿勢がみられない学生もいたことは残念であった。しかし、学習を離れれば人柄もよく感じのよい学生ばかりであった。最初から諦めるのではなく、難しいと思うことにも積極的にチャレンジする姿勢をもってほしいものです。

③後期に向けての改善内容と方策

後期担当の「管理会計論」については、公認会計士試験の短答式の問題を解くことによって、私にもできるという自信を持ってもらえないかと考えている。授業の進行については、前期の授業も考慮し、学生諸君の理解度にあわせて、無理をしないで、時間をかけて講義を進めていきたいと考えている。また、学生諸君にできるかぎり理解してもらえるよう、可能な限り平易な資料とパワーポイントの作成に努めている。また、有価証券報告書等を通じて公表されている企業のデータの一部を活用していくことも予定している。

科目コード 13103	科 目 名 商取引法
-------------	------------

①自己評価

回答者は、ほぼ全員が毎回出席しているか3分の2程度出席している。授業に出席する学生は登録学生の約半数であるが、毎回出席する学生は決まっており決まった席に座って熱心に授業を聞いてくれた。アンケートに対する回答については、消極的評価はないといってよいぐらいである。少し気になるところがあるとすれば、学生の理解度を確認しながら進めているかという質問項目である。法律学の講義科目であるから、どうしても法律構造の説明、条文の説明を中心にせざるを得ないところがあり、場合によっては理解を促進するために具体的な法規適用の場面、判例の紹介をするという具合である。そのため全体として、一方通行の講義になってしまいがちであるが、改善の余地なしとしない。

②評価に対する教員の思い

履修者に対する対象学生の数に着目すると、対象学生は登録者のほぼ半数である。授業に対して 興味を持っていない者は授業に出てこなくなってしまうので、それに対するフォローが必要であろ う。興味のある授業といっても、法律学の授業としては方法にそれほどバラエティーがあるわけで はなく困難な問題であると思う。それに法律学は、授業を進めるうえで六法を持ってくることが必 要であるにもかかわらず、持ってこない者が多い。さらに近時特に気になることは、条文を時々読 ませるのであるが、1つの条文を読む途中で何回も間違える者がいるということである。これらは やはり基礎的な学力に対するフォローの問題であり、ひとつの科目ないし授業の問題ではないと考 えられる。授業態度はというと、決して悪くはなく私語もほとんどない。

③後期に向けての改善内容と方策

授業の進め方に関して、順序としてはシラバスどおりである。講義内容はオーソドックスなやり方である。重要な法律制度の説明を、概説的なところから条文を中心として説明し、重要な判例は紹介するというやり方である。しかしこれらはややもすると一方通行の退屈な授業になりがちである。学生は時として教師とのコミュニケーションを望んでいるのかもしれないので、学生に時々質問してみたり余談を入れてメリハリのある授業とする工夫が必要である。これらは従来より講義に取り入れているので、特に今年のこの科目の改善の方策として考慮すべきというものではない。テキスト以外に判例を読むことは、具体的な法規適用の場面に触れるわけであるから、学生にとって興味あるものと考えている。

科目コード 33104	科 目 名 政治原論	
-------------	------------	--

①自己評価

全体としてこの授業の受講生は好意的に授業を評価してくれていると思う。毎年度授業全体の内容をある方向で考えて明示的に教授しているつもりである。それが全体として伝わっているなら、この授業は半分成功しているかもしれない。半分成功しないのは成績が教員が思う程良い点をとってくれなかった点であるかもしれない。それは悪いと言う程のものではないとしてももう少し頑張ってもらいたいと思うのは教員の常の思い入れであるが。

②評価に対する教員の思い

教員としては、ある意図をもってシラバスに内容の告知をし、それを毎回の授業で話しているつもりである。それは伝わらない部分があったのは残念であった。それが理解できていれば、同じ話でも聞き方が違ってくるはずである。こちらの要望はどうしても高くなる。

③後期に向けての改善内容と方策

双方向の授業のために工夫が必要であると感じる。毎回レポートを書いてもらっているが、それをもう少しフィードバックできる方法を考えたい。

受講生が少ないということもあって、私語はあまり感じられなかった。

科目コード 43102	科	目	名	国際政治学
-------------	---	---	---	-------

①自己評価

出欠状況は二極分化してしまった。アンケートに答えたのは、日頃からよく出席していた学生で、 それ以外の学生は殆ど全く出てこなかった。従ってアンケートの結果は、全般にプラスないし前向 きの回答内容となった。但し、難易度についてだけは、全員が「難しい」と答えた。

②評価に対する教員の思い

まあ順当なところ(「想定内」?)だと思う。ただ最後の満足度の項目で、一人だけ「あまり満足していない」とあったのは、残念だった。学生への要望だが、ノート(メモ)をとるということに真剣に取り組んでもらいたい。社会人として不可欠であり、一生ついて回るから。

③後期に向けての改善内容と方策

ずいぶん易しく話しているつもりだが、「難しい」ということなので、(テーマからくる面が大きいとおもうが)更に努力してみたい。

具体的には、例えば進度をもっと遅くするとか、板書をもっと詳しくするとか。

科目コード 42104	科 目 名 経営学史	
-------------	------------	--

①自己評価

今回は水曜日と木曜日に回答いただいた結果について両日の平均値に関して返答させていただいております。

手書きの回答につきましては、「授業の方は理解しやすいが、内容がわかりにくい」ということを書いていただきました。経営学史という理論的科目に関しましては、内容を理解していただくために具体的な身近なことに置き換えて話させていただくということを行っているためか授業中は理解してもらっていても、ノートを見ながら独自で理解したことを整理しようとする際にわかりにくいということが起こってくるのかと思います。もし自分でノートを整理する際などにわからないという状況が出てきたら遠慮なく質問してください。試験の際の持ち込みに関しまして「持ち込みにしてほしい」という意見がありましたが、授業の最初で説明させてもらっていますように、持ち込みがなくても授業を聞いて、ノートを取り、そのノートを10回以上試験の前に読んでもらえば理解できるような内容にしているため今後も持ち込みは認めない方向で考えています。

②評価に対する教員の思い

この科目の難易度の項目について「かなり難しい」、「やや難しい」と併せて 91.45%の方が「難しい」と感じておられるとの結果でした。9割以上が「難しい」と感じておられるようですので専門用語や専門的内容を説明するにしても平易な文章でできるだけ分かりやすい事例を用いながら進めていきたいと思います。ただし専門性についてのレベルは下げないように工夫していきます。「理論科目だから難しい」という印象を与えないように努力します。説明のわかりやすさに対する項目について、「かなり分かりやすい」、「やや分かりやすい」が併せて 93.15%でありました。今後もなるべく分かりやすく説明できるように心がけていきます。さらに授業に対する熱意を感じられるかとの項目では「かなり感じられる」、「ある程度感じられる」を併せて 97.75%という結果ですが、100%の回答をいただけるように取り組んで参りたいと思います。

③後期に向けての改善内容と方策

今後はこれまで以上の評価をいただけるように精進して参ります。「私語対策」に関して「注意してもよくしゃべってるなと思う」という意見をいただいております。私語に対する注意は一度だけでおさまらない場合は何度も注意していくよう厳格に行うようにします。快適な環境作りも非常に重要なことですので気をつけます。難易度の項目について②評価に対する教員の思いでも回答させていただきましたが、9割以上の方が「難しい」と感じておられるということは反省しなければならないことと思っております。内容につきまして質問や疑問などがありましたら遠慮なく申しつけください。授業内容に関しましては責任を持って対応(説明)させていただきたいと考えています。一方通行の授業ではなく、双方向型の関係を気づいていきたいと思いますのでわからないところが生じた際には是非声をかけてください。改善できるところは改善していくように努力します。

教員コメント

科目コード 21050 科 目 名 情報学基礎

①自己評価

「分かりにくい」の60%の意見について。テキストに沿って授業を展開していながら「分かり にくい」が60%とはつらいですね。科目の性格上内容が豊富なテキストを用いていますので、頭

	の切り替えが難しいかもしれません。ブール代数やチューリングマシンなどテキストの記述が不十分で他の科目であまりフォローされていない内容については、もう少し時間をかけて理解を助けるようにしたいと思います。
2	評価に対する教員の思い
3	後期に向けての改善内容と方策

科目コード 11050	科 目 名 プログラミング入門	
-------------	-----------------	--

①自己評価

本講義は情報学部の学生として、導入と位置づけ基本的な知識と実技を学ぶものであり、PC に触れた事のない学生にとっては戸惑う部分があると思われるため少しゆっくりと講義を進めている。そのため講義が「難しい」「やや難しい」と答える学生が半分以上いた。しかし、「かなり満足している」「やや満足している」と答えた学生が80%いるので、講義の内容としては妥当だと言える。ただ、月曜日の1限に講義があったため遅刻する学生が目立った。

②評価に対する教員の思い

アンケートからも分かるように講義において内容・速度に問題はなかったが、全15回で1つの流れになっているため、前回の講義を理解せずに出席した学生は講義内容が理解できていない箇所があったようである。毎回の講義に利用したパワーポイントをネット上に公開しているので1回1回の講義において復習を徹底してもらいたい。また、前回の講義確認のために小テストを実施しているが遅刻をしては意味がないので、講義には遅刻しないで出席してもらいたい。

③後期に向けての改善内容と方策

講義のレベルと速度については、こちらが想定している範囲で実施して問題がない事が分かった。よって、難しいと感じている学生のフォローと私語対策に重点を置き講義を実施したいと考えている。難しいと感じている学生については家庭でも勉強ができるように宿題を出すようにする。私語対策については講義中での注意を現在以上にこまめに行っていく事にする。

教員コメント

科目コード 23050	科 目 名 デジタル表現入門	
-------------	----------------	--

①自己評価

授業全体として Photoshop/Illustrator の基本については学べたのではないかと思うが、マニュアルに添ったスキルの学習ではなくプロフェッショナルベースでのアプリケーション使用方(裏技)から教えるのは、初心者には少々難しかったのではないかと思っている。

②評価に対する教員の思い

「自己表現」に対する拒絶反応を示す学生が若干名いるようだが、スキルアップに必要なトレーニングであることをしっかりと認識した上で、学んで頂きたい。

③後期に向けての改善内容と方策

アプリケーションの学習より先に、MacOS に対する学習項目を追加する。 授業ごとに必要とされるレジュメの配布を行う。

教員コメント

科目コード 31150	科 目 名 コンピュータアーキテクチャ	
-------------	---------------------	--

①自己評価

集計結果から、授業の難易度は「やや難しい」傾向がみられる。本来の目的はコンピュータの構造や計算原理を教えることであるが、前提となる情報数学や、論理回路など、未習熟の学生にはややハードルが高かったかもしれない。今後各先生方とも連携をはかり、効率的な授業運営を図りたい。

②評価に対する教員の思い

約50%弱の学生が、授業の意義を理解し「役に立つ」と回答しているが、今後は PowePoint 教材を補助的に使用し図的説明を増やし、理解の促進を図りたい。

③後期に向けての改善内容と方策		

科目コード 13152	科	目	名	オペレーティングシステム
-------------	---	---	---	--------------

①自己評価

本学の学生にとって、大多数の学生は、オペレーティングシステムと云う言葉を初めて耳にする ことであろう。まして、数学を苦手とする学生に、本来のスケジューリングや、アルゴリズムから 生じる、オペレーションを講義するのは、至難の業である。

これを、人間の日常生活に密着した習慣や動作から、その行動や、習慣が実は、機械の動作、コンピュータの動き等とどのように関係があるのか、また、コンピュータのプログラムに、どのように関わって行くかを分かりやすく述べなければ、学生の理解は得られない。

そこで、アンケート結果から、質問5では、90%以上の学生が、難しいと感じているが、上記のように話をすることにより、質問6~9では、半数以上の学生が、分かり易いと答えているこの結果から、自己評価としては、満足のいく評価を与えたい。

②評価に対する教員の思い

質問1~4では、学生が、この講義に対しての取り組みに関してである。出席と意欲に関しては、この講義が、学生の筆記を主体としており、サボると、その部分が、かなり抜けてしまうので、あとからの補充が厳しくなる様子がうかがえる。

質問 5~9 では、教員の講義内容に関する評価である。難しいと感じている学生が、多くいるが、 説明や、話し方、理解度の認識、教員の熱意に関しては、半数以上満足であるというの学生がいる。 これは、講義としては、一応及第点が与えられたと解釈する。

質問 10~12 は、私語対策及び、講義の満足度である。学生の私語は少なく、対策に関しても行っているが半数以上であることは、多分、彼らの時間が、筆記にかなり割かれているからだと思う。満足度に関しては、半数が満足。これは、多分に、筆記に不満が表れているからだと思う。

全体的に見ての評価に対する思いは、満足のいくものである。

③後期に向けての改善内容と方策

この講義では、筆記を主体としている。

最近の学生は、ノートを取ることすらしない学生が多くみられる。講義の中でも、自分は、よく話題にすることだが、「仕事をするうえで、問題点や、ヒントなどを忘れず、確実にするためと、考えをまとめるために、何時も、メモをとることを勧める」と。とくに、学生には、社会に出たときに、メモを取る癖をつけ、文章作成を避けないようにするためでもある。また、筆記内容を、プリントアウトにすると、読まずに試験時のみ目を通すと云う事で、講義内容が、身につかないからである。

筆記量が多いという学生がいるが、筆記するポイントと、単語を記述するのではなく、文章を記述する方法を指導して、講義を進めるようにする。

こちらからの質問を増やして、学生の理解度をもっと掴みながら、講義を進めていく努力をしよ う。少し、講義量が少なくなるが、深い理解を求めるために。

教員コメント

	科目コード	44151	科	目	名	アルゴリズムとデータ構造
--	-------	-------	---	---	---	--------------

①自己評価

集計結果から、授業の難易度は「やや難しい」傾向が読み取れる。授業目的が、C言語の基礎知識を保有する人に、さらにスキルアップを図ることであるので、基礎知識があいまい、またはまったくない学生には不向きである。シラバスには記載しているが、読まずに登録した学生も多くみられた。そうした学生にも配慮はしたつもりであったが、今後はさらに留意する必要性を感じた。

②評価に対する教員の思い

約70%弱の学生が、授業の意義を理解し「役に立つ」と回答しているが、今後は PowePoint 教材を補助的に使用し図的説明を増やし、理解の促進を図りたい。

③後期に向けての改善内容と方策		

教員コメント

科目コード	32151	科	目	名	ネットワークプログラミング

①自己評価

集計結果から、授業の難易度は「やや難しい」傾向が読み取れる。「ajax」という新しいテクノロジーのため、未履修の部分も他書多少あったことも否定できない。しかしネットワークの利用技術として、将来必ず役立ち得ると考え、配慮はしたつもりであったが、さらに今後留意する必要性を感じた。

②評価に対する教員の思い

約50%の学生が、授業の意義を理解し「役に立つ」と回答しているが、今後は PowePoint 教材をより充実を図るとともに、やや分量の見直し、70%にアップさせたい。

③後期に向けての改善内容と方策		

科目コード 44153	科	目	名	オブジェクト指向言語
-------------	---	---	---	------------

①自己評価

本講義ではオブジェクト指向の実践として学生が興味を持てるように実際のゲーム作成ということを主に進めたが、アンケート結果から学生には難しかった題材であったようである。ただ、アンケート結果から全学生が意欲を持ち授業に取り組んだことは分かったので、講義の内容としては問題ないと思うが、もう少し分かりやすいような説明を行う必要がる。また、私語対策と理解度の確認においては、全学生がほぼ満足している回答を得ているので、同じように講義を進める。

②評価に対する教員の思い

本講義は講義名からわかるようにオブジェクト指向を主とした講義であるが、開発環境ソフトのインストールができない学生が多く、予定した講義の半分程度しか進む事ができなかった。学生諸君には「できないからやらない」ではなく、分からない事は予習復習を行って授業に参加する事を強く望む。

③後期に向けての改善内容と方策

IT 業界では、開発期間とコストの削減からオブジェクト指向の考え方がプログラミングにおいて必須である。しかし、パソコンの基礎が身に付いていない学生が多くいたので、宿題を多く出し家での予習復習を習慣づけることを目指す。また、講義の難易度については学生が多少難しいと思われる現状で進め、講義内容で工夫を指定校と考える。

科目コード 42153	科 目 名 情報セキュリティ	
-------------	----------------	--

①自己評価

アンケート回答者が履修者の 6 割、かつほぼ毎回出席する学生の統計結果ということで、そのまま鵜呑みにはできないが、全体としては満足のいく回答結果である。

私語対策(項目 10,11)について、当初の目論見どおり成功した。当該講義は、出席態度(平常点)の代わりとして、妨害行為に対する減点法を導入した。昨年に引き続き抑止力になっていると思われる。当たり前のことに対策をせざるを得ない状況はとても歯がゆいが…。

②評価に対する教員の思い

学生から、「プリントを配布してほしい」というコメントをいただいた。学生の要求をかなえてあげたいところだが、印刷枚数に制限があることや、人数分印刷しても無駄になることから印刷に踏み切れない。情報学部の学生は貸与パソコンがあるので PDF フォーマットの講義資料を活用してほしい。また、「必要な分だけ印刷する」という能力を学生自身もつけてほしい。

③後期に向けての改善内容と方策

学生の理解度向上を考える時期に来たと感じる。教授者にとって一方的な講義形態は容易なことであるが、多くの学生は講義に出席はしていても「参加」していない状況になっている。それでいて、(ある意味で一方的な)要望があることを鑑みると、従来の講義形態を 180 度変える何かが必要なのだろう。第一弾として、次年度は「文章を書く」「自分の意見を(間違っていても)述べる」ことができる講義を展開したい。我々のみならず、学生の意識にも変革が必要なのだろうが…。

	1				
科目コード	12150	科	目	名	経営情報システム論 I

①自己評価

今回のアンケートの回答率(履修者数に対する回答者数)が前年より上がっており、アンケート 結果は総合的に見て昨年に比較して評価は上がっています。

昨年評価の低かった難易度については、昨年の評価(かなり難しい 40.0%、やや難しい 40.0%)に対して今回の評価では(かなり難しい 14.3%、やや難しい 64.3%)となり、また、分かりやすさの点でも、昨年の評価(かなり分かりやすい 20.0%、やや分かりやすい 40.0%)に対して今回の評価では(かなり分かりやすい 46.7%、やや分かりやすい 40.0%)となり、難易度の点、分かりやすさの点においても改善されたと考えられます。その結果として満足度の点においても、昨年の評価(かなり満足 10.0%、やや満足 60.0%)に対して今回の評価(かなり満足 35.7%、やや満足 42.9%)となり、評価があがったと考えられますが、まだまだ改善の余地があると考えています。

②評価に対する教員の思い

この授業では、年度ごとに授業の構成、進め方、難易度などを昨年の反省を行い試行錯誤しながら授業を進めているのが現状ですが、経営学の基本的な内容の説明を増やした点で、今回、理解しやすくなったものと考えられます。ただし、まだ難しいを感じている学生が多くいることから、今後も改善を考える必要があると考えています。

その他、授業中の私語について、受講意欲がなく私語をしていると思われる学生が時に見られる ために注意をしてきましたが、そのことで授業が中断されて迷惑だと考える学生もいることをよく 考えて受講してほしいと思います。また、授業中に頻繁に質問やコメントをする学生がいましたが、 これは私語ではなく、授業への積極的な参加であると考えていますので、その内容に応じてその場 で答えたり、後から答えたりするように対応して来ました。

③後期に向けての改善内容と方策

毎年少しずつは改善されてきたことと考えますが、継続的に、学生の興味をひいて学習意欲を高めるための工夫を行うことが今後の最重要課題だと考えます。今後も以下の点に留意し工夫を行いたいと考えています。

- (1) 簡潔明瞭な説明・解説: 学生の興味ある事例を提示した具体的な目標設定を授業開始時におこない、その時間のポイントとなる点を要領よく説明する。説明にあたっては、ポイントとなる用語を板書するだけでなく、その意味や内容に至っても書いて覚えてもらうような工夫をおこなう。
- (2) 学生とのコンタクト: 講義中の教室巡回を頻繁におこない、各学生とのコンタクトを多くとることによってやる気のなさそうな学生の感想や意見を聞くと同時に、授業に集中させるような課題等を与えるようにする。
- (3)理解度の確認と意見の回収:レポートの他に理解度や感想、意見を書いてもらい、毎回の授業のチェックと今後への改善へとつなげる。

科目コード 13155	科目名	e - ビジネス論
-------------	-----	-----------

①自己評価

卒業後、情報化社会で活躍できるよう、企業のインターネットや情報システム化への取り組みの 最前線を、できるだけわかりやすく伝えようという思いで講義を展開した。

それをしっかりと受け止めることができた学生もいたが、やはり、実習ではなく、座学が中心の 授業なので、どうしても情報学部の学生諸君は苦手のようで、集中が途切れる学生が多かったのも 事実である。また、実社会での経験がほとんどない、企業の活動を説明しても、なかなか想像力が ついていかないようにも感じた。

《難易度》について、「かなり難しい」「やや難しい」が 8 割ほどを占めていたのがそれを示している。

ただ、例年、ほぼ同様のレベルで進めており、今年だけ特に難しかったわけではないのだが、これ程、難しいという反応があったのは初めてであり、来年からは、それを考慮した進め方ができればと思う。

一方、《熱意》について、「かなり感じられる」「ある程度感じられる」を合わせて**9**割あり、私の思いは、それなりに受け止めてくれているのではないかと思われる。

②評価に対する教員の思い

黒板の字が読みにくいとの指摘はもっともであると思う。もちろんできるだけ丁寧を心がけたが、ついつい話と思考のスピードの勢いのまま字を書いてしまう癖があり、さらに努力を重ねたい。特に赤字の使用を嫌う学生が多いことがわかったのが、意外であった。黒だけだと、アクセントがつかないので、赤や青を混ぜて使っているが、確かに、赤字のペンの種類が他のものと異なり、やや薄い印象があった。後期は別のメールの赤字ペンを利用し、評価を待ちたい。

また、居眠りしている学生、激しく遅れてきた学生に厳しく注意したが、それが、ちゃんと受講 している学生にとって不快に思われたようである。それは当然のことと思う。

今後は、今の注意は、態度の悪い学生にかけた言葉であり、それ以外の学生への思いではない、 ということをきちんと説明したいと思う。

③後期に向けての改善内容と方策

後期は別の科目に変わるが、黒板の字について、上記の工夫を凝らしたいと思う。

また PowerPoint のスライドを増やし、それをノートしてもらうという時間も増やしたい。

ただし、個人的には、これは一長一短あると思っている。

講義をしている最中に、その時に浮かんだ発想やより適切な言葉・文章を提示する方が、より役に 立つ場合もある。

この両者の組み合わせを工夫していきたい。

態度の悪い学生に対する対応については、②に書いたとおりである。

教員コメント

科目コード 24154	科	目	名	コンピュータグラフィックス
-------------	---	---	---	---------------

①自己評価

制作を開始する前の「アイデア段階」でのイメージ構築を重視した課題であったが、学生のスキル (Photoshop/Illustrator) にかなりばらつきがあり、後半で悪戦苦闘した。

②評価に対する教員の思い

当授業はアプリケーションスキルを学ぶ事が目的ではなく、アイデアの出し方、イメージ編集、 そしてその表現方法を学ぶ事を目的としている。Photoshop/Illustrator に関するスキルは表現分 野では必要不可なものであり、学生の自主的な学習を望むものである。

③後期に向けての改善内容と方策

学生のスキル (Photoshop/Illustrator) にかなりばらつきがあるため、前半にアプリケーション 操作方法に関する学習項目を追加する。

科目コード 22152	科	目	名	映像技術 I
-------------	---	---	---	--------

①自己評価

2時限・3時限と同じ内容の授業で、回答も似通っているので2クラスをまとめて評価する。 質問②受講意欲は(2時限 94.1%、3時限 96.4%)と大いにあるが、⑤授業の難易度では殆ど の学生が難しいと感じている(78.9%、89.3%)。そのなかで、⑥教員の説明はわかりやすく(78.9%、 89.3%)、⑦聞き取りやすく(100%、92.9%)、⑧理解度を確認しながら進めている(89.4%、89.3%)、 と評価している。また⑨教員の熱意(84.2%、96.4%)も感じてくれている。質問⑪私語に関する 項目に違いがある。私語は一部特定の学生達にあるが、自由記述の項目からも特に授業妨害につな がる記述はない。出席率が60%と75%での回答であり、問題は残る。

②評価に対する教員の思い

このアンケートにデータはないが、留学生は真摯に受講していて、2時限と3時限のアンケート結果の差異や結果としての理解度・成績に現れている。それに比して日本人の出席率や授業への取り組み姿勢が良くない。授業中での集中力が授業に無関係なパソコン操作に殺がれている様子が見られる。質問⑫総合的な満足度(89.5%、92.3%)からも余所見をしないで、出席率を上げ、理解度の向上と成績に結びつけて欲しい。

③後期に向けての改善内容と方策

前期は専門性の高い知識を学ぶ座学であったが、後期はその応用と創作力を表現する自主的な活動力を必要とする。道具としてのソフトの使い方などをできるだけ解りやすく説明し、理解度をより確認しながら進めることを心がけていく。これらの後押しをしながら、より興味があれば課外活動などでもサポートしていきたい。

ſ	科目コード	24150	科	目	名	映像メディア論
	MID I	24100	17		4	

①自己評価

授業の受講者(登録者)は、学部生(日本人)、学部生(留学生)、短期留学生が、おおよそ2:1:1の割合であり、アンケートの回答者数も、ほぼこの比率に近いと思われる。 このように多様な学生を対象にしているこの授業は、講義形式の概論であり、取り上げる対象も幅広く、いささか一方通行の授業になりがちである。個々の学生にとっては、受け止め方、感じ方もさまざまあると思える。自由記述をできるだけ書くようにと伝えたのはそのためであり、またそれなりの回答があったのはありがたかった。

学生との質疑ももう少し加えながらとは思うのだが、質問をしても反応は乏しく、答えるのは限られた学生、というのも実情である。

②評価に対する教員の思い

できるだけ多くのことを、また重要なことを伝えようとして、勢い一方的に講義をしてしまうことが多くなったようだ。ただ、質問をしても、反応は乏しく、答えるのは限られた学生となってしまう状況は、何とか改善したいが、学生諸君の積極性を望みたい。

③後期に向けての改善内容と方策

"自熱教室"のような授業になればとも思うがなかなかそうはいかない。

後期は映像を見ることが多くなるが、その中で、できるだけ学生に問いかけ、問題提起もし、意 見も聞き、教室をより活性化したい。

亡くなった作家・劇作家の井上ひさしさんの言葉ではないが、「難しいことをやさしく、やさしい ことを深く」、学べ、なお且つ興味関心を育むようにできればと思っている。

科目コード 22156	科	目	名	情報と音楽I
-------------	---	---	---	--------

①自己評価

アンケート(1)(2)(3)(4)(5)(8)(9)(12) に関しては想定していた通りの結果であります。特に説明の必要はないと思います。

(6) に関しては相当な苦労がありました。なぜならば、留学生がかなりの数を占めていましたので、イタリア語・日本語・英語・和製英語を使用する日本の音楽用語を中国語に変換する事が難しかったためです。学生諸君にとって、わかりにくい部分が多々あったと思います。中国にいる知り合いに連絡をとりながら、いろいろと調べましたが未だ解決にいたらない部分もあります。(7)に関しては、私自身が関西訛りが強い方なので、できる限り共通語を使う事を心がけていますが、やはり完全ではありませんので引き続き努力をしたいと思います。(10)の私語対策は注意をしているつもりなのですが、音楽という性質上どうしても音がでてしまいますので、他の授業に比べて私語が多くなってしまいます。

②評価に対する教員の思い

① に準ずる部分で、いろいろ工夫をしようと考えていますが、何分すぐに改善できるもではありませんので引き続き努力をしていきたいと思います。

③後期に向けての改善内容と方策

後期「情報と音楽Ⅱ」では、実技をメインとしています。従いまして、さらに私語が増える確率 が高まるわけですが、その都度しっかりと注意をしたいと思います。

教員コメント

科目コード 51153	科	目	名	デジタル・アーカイブ
-------------	---	---	---	------------

①自己評価

今回のアンケートは実施日が丁度、課題提出日を重なっており、学生によっては教室ではなく事前に共有フォルダへデータ提出する者も多かったせいで、21名中5名のアンケート結果になった。この5名のアンケート結果を見る限り、すべてにおいてほぼ平均以上の満足度が挙げられている。このことから、授業自体の進め方については問題ないと解釈している。

②評価に対する教員の思い

比較的評価の低かった項目について、「私語」についての多さや対策についての意見があるが、 この科目は後半から実習授業となるため、撮影等で学生が席を立ったり、学生同士が遅れている学 生のサポートをすることもあるので、多少の私語は許容している。ただし、全く授業に関係ないこ とを大きな声で話し続けるようであれば、必ず注意し辞めさせるようにしている。

③後期に向けての改善内容と方策

前期のみの授業で後期は無い。

教員コメント

科目コード 33107	科	目	名	教育心理学
-------------	---	---	---	-------

①自己評価

授業の難易度が高いと感じている学生が多かった. 心理学的知見を抽象的に扱う授業場面では、 学生の理解度が高まったという手応えは十分ではなかった. 学校現場での教育実践が想定できるよ うに課題や知見を提示していく必要があると感じた.

②評価に対する教員の思い

教職を志す学生の授業態度は前向きであった. その姿勢に十分に応えるように熱心に授業を行っていきたい.

③後期に向けての改善内容と方策

授業では、抽象的な内容をより具体的に提示し、実際場面を想定させながら内容を取り扱っていくことを意識していきたい. そのようにして学生の学習意欲を高め、習熟度を高めていきたい.

科目コード	99119	£1.	н	Þ.	教育の方法と技術
村日コート	32113	什	H	名	教育の方法と技術

①自己評価

この授業は教職課程の教職専門科目であり、科目の内容そのものが「分かる授業」作りについて 学習するものである。したがって、私自身の指導技術が試されていて、「難易度は適当ですか。」、 「説明が分かりやすいですか。」、「学習の理解度を確認しながらこの授業を進めていますか。」、「授 業に対する熱意や意欲が感じられますか。」の設問に、学生は概ね肯定的な回答を寄せているが、 まだまだ低い評価であると反省している。また、私語対策についても、その注意の仕方を含めて種々 の方法を示し実践したつもりであるが、評価が低いのは残念である。私語と活発な学習活動との違 いも含めて更に考えて行かなければならない。

②評価に対する教員の思い

「授業」は教師と学習者の3方向コミュニケーションが機能して成立する。教師が知識や技術を確実に伝えたいと熱意をもってあたったとしても、学習者がこれに応え、意欲を持って授業に臨まないと、教授学習過程は成立しない。学習者の関心・意欲を高めるのもまた教員の指導技術によるものと自覚しているが、全くやる気のない学生に、関心・意欲を持たせるのは、非常に難しい。

③後期に向けての改善内容と方策

知識や技術の習得は、初期レベルの習得、アドバンスレベルの習得、エキスパートレベルの習得の3段階の学習過程を経て達成される。「教育の方法と技術」の授業は初期レベルの習得段階を、「教育実習セミナー(教育実習事前事後指導)」はアドバンスレベルの習得段階を狙ったものである。「教育の方法と技術」で学んだ知識や技術を実際に「模擬授業の実習、教育実習」の中で活用することで、生きた学力を獲得できる。授業で学んだことをそのまま放置しておけば力はつかない。

教員コメント

科目コード 35101	科	目	名	生徒指導・進路指導
-------------	---	---	---	-----------

①自己評価

授業の難易度がやや高いと感じている学生が多かった。前時の内容を復習してから本時に入るという配慮は不足していた。学校現場での教育実践上、きわめて重要な内容を取り上げているため、学生の理解度が高まるように毎時の学習の連続性が認識できるように、授業のはじめと終わりの段階で工夫していく必要性を感じた。

②評価に対する教員の思い

教職を志す3年次生以上の学生の授業態度は前向きであった。その姿勢に十分に応えるように、 教育実習を想定しながら、きめ細かな授業を行っていきたい。

③後期に向けての改善内容と方策

前時の内容を復習してから本時に入るという配慮は不足していた。授業のはじめと終わりの段階を工夫し、毎時の授業の連続性を認識させながら、学生の理解度を高めていきたい。